

徳川林政史研究所蔵 旧蓬左文庫所蔵史料目録(上)

凡 例

一 本目録は、徳川林政史研究所が所蔵する旧蓬左文庫所蔵史料について収録したものである。蓬左文庫（蓬左は名古屋の雅号は、元和年間に初代尾張藩主徳川義直が創設した「御文庫」の蔵書をはじめとする尾張藩旧蔵の典籍・記録類を保存・公開するため、昭和一〇年に財団法人尾張徳川黎明会（現在の財団法人徳川黎明会が東京市豊島区目白町に開設した文庫である。しかし戦争の進展により、蓬左文庫は昭和一九年に一時閉鎖を余儀なくされ、昭和二五年には、文学関係の和書や漢籍を中心とする約六万四一〇〇冊の蔵書、および「蓬左文庫」の名称を愛知県名古屋市に委譲するに至った。旧蓬左文庫所蔵史料は、蓬左文庫の蔵書のうち、このとき譲渡されなかった典籍・記録・古文書などから成る史料群で、蓬左文庫付属歴史研究室を継承した徳川林政史研究所が現在に至るまで保存している。なお旧蓬左文庫所蔵史料目録は、紙幅の関係などから一度に収録することが困難であるため、本号以降、複数回に分けて掲載することにする。

一 本目録では、各史料について①番号、②表題、③刊写年、④著者（または編者・作成者など）、⑤蔵書印、⑥形態、⑦数量、⑧備考の八項目を採録した。

一 番号は、昭和一〇年の開設以前に蓬左文庫によって付された枝番号形式の番号を用いた。なお、本目録の配列は、この番号の順序にしたがった。

一 表題は、原則として内題（巻頭題）を採用し、外題を（ ）付きで直後に

示した（なお、内題と外題が同じ場合には、（ ）の表記は省略した）。また、複数冊からなる史料で各冊の内題が異なる場合には、主として第一冊に示された題名を採用し、備考欄などで適宜第二冊以降の表題を示しておいた。

一 表題のみでは内容の把握が困難と考えられる史料には、必要に応じて表題の直後に（ ）付きで内容に関する補記を行った。また、史料の内容年についても同様に（ ）を付けて示した。

一 刊写年は、原則としてその史料が書写（写本）または刊行（刊本）された時点の年次を「〇〇年写」「〇〇年刊」などと表記した。具体的な刊写年がわからない場合は、「江戸前期写」「江戸後期刊」または「江戸写」「明治 刊」などとおおよその年代を示し、判然としないものについては「写年未詳」「刊年未詳」とした。また、刊本のうち後印本であることが明らかな場合には、初版年次に続けて（ ）付きで後印年次を示した。なお、古文書などで原本があることが明白な場合には「〇〇年筆」と表記した。

一 著者欄には、その史料の著者・编者などを示し、刊本については版元や発行所をあわせて明記した。また、古文書で差出人・宛所が明確になっているものについては、「差出人↓宛所」の順で矢印を用いて表記した。

一 蔵書印は、尾張藩および尾張徳川家・蓬左文庫での史料の伝存のあり方を示すものに限って採録し、略号をもって表記した。主な蔵書印と略号との対応関係は、別表に掲げておいたので参照していただきたい。

一 形態については、状・縦（縦帳）・横（横長帳）・横半（横半帳）・鋪（絵図）・折本・卷子などと示した。なお、刊本における「縦」「横」の表記

は、体裁の大概を示すにとどめ、また小型本については「縦・小」などと表記した。

一 数量は、出納・閲覧の便宜を考慮し、後年の改装により分冊あるいは合綴されたことが明らかな場合でも、現在保存されている状態での冊数を採用した。

一 備考は、別題や欠本の状況、転写した人物、収録内容の概略など、必要と思われる事項を記入した。また、尾張藩維新史料収集編纂事業に関わる「維新史」と記されたラベルや、蓬左文庫での史料受入年月日が明記された「蓬左文庫蔵本」の貼紙など、史料の伝存の経緯や過去の利用の実態がわかるラベル・貼紙などについても、適宜指摘しておいた。

一 多量の冊数におよぶ史料のうち、内容の区切りが明確なものについては、出納や閲覧の便宜のため、原則として各冊ごとの細目を掲載した。

一 本目録は、当研究所で過去に採録したカードを基礎とし、これに今回の目録掲載に際して改めて実施した内容調査の結果を加えて構成した。内容調査は、主として太田尚宏が担当し、須田肇がこれに協力した。

別 表 蔵書印の略号一覧

略号	印 文	寸 法 ・ 特 徴 な ど
蓬左 A	蓬左文庫	37mm×37mmの方形。昭和4年の刻印がある。
蓬左 B	蓬左文庫	43mm×43mmの方形。大正元年の刻印がある。
尾 陽	尾陽文庫	67mm×67mmの方形。尾張藩「御文庫」の最初の蔵書印。
尾府 A	尾府内庫図書	43mm×38mmの方形。尾張藩「御側御文庫」の蔵書印。
尾府 B	尾府内庫図書	75mm×42mmの長方形。尾張藩「御側御文庫」の蔵書印。
張府 A	張府内庫図書	42mm×41mmの方形。尾張藩「御側御文庫」の蔵書印。
張府 B	張府内庫図書	75mm×48mmの長方形。尾張藩「御側御文庫」の蔵書印。
内 庫	内庫之印	46mm×19mmの長方形。尾張藩「御側御文庫」の蔵書印。
内 府	内府蔵書	48mm×48mmの方形。
張 藩	張藩図書	45mm×21mmの長方形。
記録所	御記録所図書之記	51mm×34mmの長方形。寛政2年頃に名古屋城中と江戸市ヶ谷上屋敷に設けられた「御記録所」の蔵書印。
日記所	御日記所	39mm×31mmの楕円形。文政9年に御記録所から改称した「御日記所」の蔵書印。
日記懸	御日記懸	39mm×31mmの楕円形。「御日記所」の蔵書印。
邸 中	尾藩邸中記曹図書	49mm×31mmの長方形。
寺 社	尾藩寺社官府蔵書	74mm×39mmの長方形。尾張藩寺社奉行所の蔵書印。
尹 庁	尾張府尹庁印	56mm×37mmの長方形。尾張藩町奉行所の蔵書印。
明倫堂	明倫堂図書	56mm×24mmの長方形。尾張藩の藩校である明倫堂の蔵書印。
徳蔵記	徳川氏蔵書記	52mm×36mmの長方形。
徳図記	徳川氏図書記	64mm×39mmの長方形。四隅に「尾張」の文字が装飾的に配置されている。
徳図印	徳川氏図書印	75mm×48mmの長方形。
徳蔵書	徳川蔵書	35mm×35mmの方形。
徳 川	徳川	35mm×35mmの方形。
盛 斎	盛斎	30mm×31mmの方形。徳川慶勝の蔵書印。
子 忠	子忠	31mm×31mmの方形。徳川慶勝の蔵書印。
字 白	字白子忠	58mm×56mmの方形。徳川慶勝の蔵書印。
日々新	日々新	38mm×38mmの方形。徳川慶勝の蔵書印。
侍 従	侍従之印	31mm×31mmの方形。徳川慶勝の蔵書印。
義恕印	義恕之印	31mm×31mmの方形。徳川慶勝の蔵書印。
源義恕	源章義恕	23mm×23mmの方形。徳川慶勝の蔵書印。
慶勝蔵	慶勝蔵書	23mm×23mmの方形。徳川慶勝の蔵書印。
国 主	尾張国主	36mm×36mmの方形。徳川慶勝の蔵書印。

番号表題

刊写年

著者(作成者)

蔵書印

形態

数量

一 尾張洒家苞

文政二年刊

石原正明(著)
永楽屋東四郎(版)

蓬左 A

縦

九

*新古今和歌集の注釈書。

二 新古今集美濃の家つと(美濃の家裏)

寛政三年刊

本居宣長(著)
永楽屋東四郎(版)

蓬左 A

縦

八

*『美濃の家つと』五巻五冊と『美濃の家つと折添』三巻三冊からなる。

三 古事記(訂正古訓古事記)

享和三年刊

本居宣長(訓)
菱屋又兵衛ほか(版)

蓬左 A

縦

三

三 伊勢両宮御参宮記(寛保二年)

江戸 写

蓬左 A

縦

一

三 類聚符宣抄(巻二・巻五欠)

文政三年刊

塙保己一(校)

蓬左 A・張府 B

縦

八

三 職原抄(職原鈔)

江戸 刊

北畠親房(著) 版元未詳

蓬左 A・張府 A

縦

二

三 町鑑(天保年間江戸町鑑)

江戸後期写

蓬左 A・張府 B

縦

三

*目録および一・二冊からなり、町の配列等は、天保一五年刊『御江戸昌平町鑑』に近似している。

三 古今類聚常陸国誌

江戸中期写

小宅生順(編)

蓬左 A

縦

五

*徳川光圀が寛文年間に儒官小宅生順に編さんさせた『常陸国志』の増補本と推定される。

四 国郡全図

文政一一年刊
(天保八年後印)

青生東谿(著)
永楽屋東四郎ほか(版)

蓬左 A

縦

二

四 自江戸松前迄の行程記(蝦夷行程記)

江戸 写

蓬左 A・徳図印

縦

二

*別題「松前行程記」。

四 江戸古絵図附録

江戸中期写

蓬左 A

縦

一

四 大須経蔵新目録(大須真福寺経蔵目録)(享保一五年)

江戸 写

大須真福寺宥海(著)

蓬左 A・邸中

縦

一

四 年中行事故実考(寛保二年序)

江戸中期写

松平士龍(著)

蓬左 A

縦

一〇

旧蓬左文庫所蔵史料目録(上)

番 号 表 題

刊 写 年

著 者 (作 成 者)

蔵 書 印

形 態

数 量

四一 卷 (年号難陳 改寛永廿一為正保元)

江 戸 写

蓬 左 A

縦

一

五 五 武家殿制録

江 戸 写

蓬 左 A

縦

五 八

*正編六六卷三三冊、続編二四卷一二冊、続編後記三卷一二冊、総目録一冊からなる。

第一冊 総目録 附続編・続編後記目録

第二冊 卷一(禁裏院中并公家衆御条目) 卷二(武家御条目之部)

第三冊 卷三(御陳中 付御上落并日光御成御条目之部) 卷四(日光御成御条目下)

第四冊 卷五(所々御番城御条目之部上) 卷六(所々御番城御条目下)

第五冊 卷七(諸宗寺院僧中御条目上) 卷八(諸宗寺院僧中御条目下)

第六冊 卷九(於岩付阿部伊勢守献上物之部ほか) 卷十(將軍家江戸御城御進免之次第)

第七冊 卷十一(將軍家従日光還御御江戸御城入行列次第ほか) 卷十二(家綱公御元服次第上)

第八冊 卷十三(家綱公御元服之下) 卷十四(諸宗寺院御条目部并領時御判物)

第九冊 卷十五(諸宗寺院御条目之部) 卷十六(高野山御条目部)

第一〇冊 卷十七(神社御条目) 卷十八(神社領御寄進状 付知行目録部)

第一一冊 卷十九(神社御寄附状并知行目録部) 卷廿(寺社方公事御裁許御下知状部)

第一二冊 卷廿一(高野山公事御裁許御下知状趣) 卷廿二(諸大名代替ニ付御条目部)

第一三冊 卷廿三(御改易之衆有之時御条目之部) 卷廿四(福島左衛門太夫領国被召上候時制法部)

第一四冊 卷廿五(京極丹後守預ノ節御掟之次第) 卷廿六(京都所司代板倉氏父子公事掟掟条々)

第一五冊 卷廿七(御役人衆御条目) 卷廿八(雑部)

第一六冊 卷廿九(萬札之部) 卷三十(萬札之部)

第一七冊 卷三十一(萬札之部) 卷三十二(萬令條之部)

第一八冊 卷三十三(火事之節御制法之事ほか) 卷三十四(上方関東御代官江被仰出候事ほか)

第一九冊 卷三十五(萬札之部) 卷三十六(萬札之部)

第二〇冊 卷三十七(雑部) 卷三十八(雑部)

第二一冊 卷三十九(雑部) 卷四十(雑部)

- 第二冊 卷四十一(雑部) 卷四十二(雑部)
- 第三冊 卷四十三(雑部) 卷四十四(雑部)
- 第四冊 卷四十五(関所女手形之部) 卷四十六(雑部)
- 第五冊 卷四十七(家綱公御本丸御移徙之時御条目部) 卷四十八(服忌令之部)
- 第六冊 卷四十九(御清之部) 卷五十(大坂京都辺御条目之部)
- 第七冊 卷五十一(大坂中御条目御触書之部) 卷五十二(大坂中御条目并御触之部)
- 第八冊 卷五十三(大坂中御仕置御条目之部) 卷五十四(所々御門番所々勤番之部)
- 第九冊 卷五十五(所々御名代 附上使之次第) 卷五十六(雑部)
- 第三〇冊 卷五十七(御預人之次第) 卷五十八(公帖并御内書之次第)
- 第三一冊 卷五十九(武家奉書之次第) 卷六十(御目付衆年中萬勤方之寛)
- 第三二冊 卷六十一(諸国御関所之部) 卷六十二(諸国関所女手形之部)
- 第三三冊 卷六十三(諸国御関所之部) 卷六十四(御留守居中古来より但統之次第ほか)
- 第三四冊 卷六十五(正五九月服御改之節触之次第ほか) 卷六十六(小普請金出ス次第并割合ほか)
- 第三五冊 統編卷一(正徳六丙申年五月より六月十六日迄被仰出候御文言三十二ヶ条之部) 統編卷二(正徳六丙申年六月より同年十二月迄被為仰出数ヶ条之部)
- 第三六冊 統編卷三(享保二丁酉年正月ヨリ十月迄被仰出候数ヶ条之部) 統編卷四(享保二丁酉年十二月より同三戊戌五月迄被仰出候数ヶ条之部)
- 第三七冊 統編卷五(享保三戊戌年六月より同十月迄被仰出候数ヶ条之部) 統編卷六(享保三戊戌年閏十月より同己亥年十二月迄被仰出候数ヶ条之部)
- 第三八冊 統編卷七(享保五庚子年正月より十二月迄被仰出候数ヶ条之部) 統編卷八(享保六辛丑正月より同六月迄数ヶ条之部)
- 第三九冊 統編卷九(享保六年七月より同十二月迄数ヶ条之部) 統編卷十(享保七壬寅正月より同四月迄数ヶ条之部)
- 第四十冊 統編卷十一(享保七年四月より同五月迄数ヶ条之部) 統編卷十二(享保七年五月より同七月迄数ヶ条之部)
- 第四一冊 統編卷十三(享保七年七月より同十二月迄数ヶ条之部) 統編卷十四(享保八癸卯年正月より同十月迄数ヶ条之部)
- 第四二冊 統編卷十五(享保八年七月より同十二月迄数ヶ条之部) 統編卷十六(享保八年十一月より同十年巳十二月迄数ヶ条之部)
- 第四三冊 統編卷十七(享保十一丙午年二月より同十二月迄数ヶ条之部) 統編卷十八(享保十二丁未年四月より十二月迄数ヶ条之部)
- 第四四冊 統編卷十九(享保十三戊申年正月より同六月迄数ヶ条之部) 統編卷廿(享保十三年九月より同十四西年五月迄数ヶ条之部)
- 第四五冊 統編卷廿一(享保十四年六月より同十五庚戌四月迄数ヶ条之部) 統編卷廿二(享保十五年四月より同十六辛亥年二月迄数ヶ条之部)

番 号 表 題

刊写年

著者(作成者)

蔵書印

形態

数量

第四六冊 続編卷廿三(享保十六年二月より同七月迄数ヶ条之事) 続編卷二十四(享保十六年七月より同十二月迄数ヶ条之事)

第四七冊 続編後記卷一(諸宗触頭へ於土井伊予守宅御書付出作法之儀被仰渡之次第之事ほか) 続編後記卷二(寺々祖師より作法御条目之事)

第四八冊 続編後記卷三(寺々御條目之事并御代替ニ付御改作法之儀被仰渡候御文言之事) 続編後記卷四(御門跡方三宝院当山方御作法御条目之事)

第四九冊 続編後記卷五(江戸古来町数之部ほか) 続編後記卷六(奉公人取逃欠落ニ付請人金其所之支配人へ被仰付候御条目之事ほか)

第五〇冊 続編後記卷七(公家衆御馳走ニ付被仰出候ヶ条之事ほか) 続編後記卷八(家千代様御誕生之節御幕目御矢取御産力并御乳附人被相勤候衆之部

ほか)

第五一冊 続編後記卷九(將軍綱吉公御他界之節被仰渡事并為同御機嫌出仕之事ほか) 続編後記卷十(御番入願書指出候御穿鑿御書付之部ほか)

第五二冊 続編後記卷十一(朝鮮人來朝ニ付被仰出御書付之事ほか) 続編後記卷十二(源家宣公御他界ニ付被仰出候一件之事ほか)

第五三冊 続編後記卷十三(屋代越中守被仰渡并家中御仕置被仰付事ほか) 続編後記卷十四(文照院様御在世之節御戒御書付之事ほか)

第五四冊 続編後記卷十五(御元服日限被仰出候事并登城刻限之事ほか) 続編後記卷十六(萩原遠江守へ被仰渡候事ほか)

第五五冊 続編後記卷十七(雜事御書付之事ほか) 続編後記卷十八(紀州様へ御後目御披メ之事ほか)

第五六冊 続編後記卷十九(火事之節打ませ打候場所被仰出候御書付之事ほか) 続編後記卷二十(御番衆御目見以下迄皆勤御褒美被下候衆名并員数之事

ほか)

第五七冊 続編後記卷二十一(寄合衆へ被仰渡候御書付之事ほか) 続編後記卷二十二(竹姫様御入興御規式一件之事)

第五八冊 続編後記卷二十三(水野準人正被仰渡事并卯之助・宮内ニ被仰渡候事付秋元但馬守へ被仰渡事ほか)

五十一 三 (公義御代々諸法度)(歴代武家諸法度)

安政六年以降写

蓬左 A・日記所 縦 一

*徳川家光(寛永一二年)より家茂(安政六年)に至るまでの代々の武家諸法度を収載。

五十一 六 公事訴詔御定書

江戸後期写

蓬左 A 縦 一

*寛保二年四月成立の史料に宝暦九年の触などを書き継ぐ形式をとる。

五十一 五 (武家官位昇進之次第)

江戸後期写

蓬左 A 縦 一

六十一 五 訓蒙図彙(寛文六年序)

寛文年間刊

中村惕斎(編) 版元未詳

蓬左 A・張府 B 縦 一四

*各項ともに彩色の図を付す。図は木版刷りの上に後から着色したもの。

第一冊 叙 凡例 目録上

第二冊 目録下

第三冊 卷第一(天文) 卷第二(地理) 卷第三(居処)

第五冊 卷第六(衣類) 卷第七(宝貨)

第七冊 卷第九(器用二)

第九冊 卷第十一(器用四)

第十一冊 卷第十四(龍魚) 卷第十五(虫介)

第十三冊 卷第十八(果蓏) 卷第十九(樹竹)

六〇四 岐岨のすさひ(宝暦四年跋)

* 渋江公正による写。

寛政九年写

第四冊 卷第四(人物) 卷第五(身体)
第六冊 卷第八(器用)
第八冊 卷第十(器用三)
第一〇冊 卷第十二(畜獸) 卷第十三(禽鳥)
第二二冊 卷第十六(米穀) 卷第十七(菜蔬)
第二四冊 卷第二十(草花)

蓬左 A

縦

一

六〇四 [落葉集]

明治一九年頃写

蓬左 A

縦

二

六〇五 [福井藩御仕置留](安永七年)

* 中根正教による写。

天保九年写

蓬左 A

縦

一

六〇五 [松平慶永公御代記事]

明治三三年以降写

蓬左 A

縦

一

六〇七 日本水土考(日本水土考 附両域人数考)

享保五年刊

西川如見(著)

蓬左 A・尾府 B

縦

一

六〇九 [月の夜の友]

江戸 写

松平義行(著)

蓬左 A・張府 B

縦

一

六一九 [萩の下葉](正徳年間成立)

江戸 写

松平義行(著)

蓬左 A・張府 B

縦

一

六一二 鯨志

宝暦一〇年刊
(明治後印)

梶取屋次右衛門(著)
穴山徳太郎ほか(版)

蓬左 A・徳川

縦

一

六一三 [写掛御医書]

江戸 写

蓬左 A・尾府 B

縦

一

七一三 本多佐渡守正信記(本多正信集)(慶長一七年成立)

江戸 中期写

本多正信(著)

蓬左 A・張府 B

縦

一

* 別題「本佐録」。

旧蓬左文庫所蔵史料目録(上)

番 号 表 題

刊 写 年

著 者 (作 成 者)

蔵 書 印

形 態

数 量

八一五 辺要分界図考(文化元年自序)

江戸 写

近藤守重(著)

蓬左 A・張府 B

縦

八

八一七 (寛明日記寄)

江戸 写

蓬左 A・尾記録

縦

五

*『寛明日記』を高貴・上使・登城・参勤などの項目に分類して抜粋したもの。三冊本を後年になって五冊に改装。

第一冊―第二冊 寛永元〜二〇年

第三冊―第四冊 正保元〜慶安四年

第五冊 慶安五〜承応二年

八一六 (国寄大名附)

江戸後期写

小山甚兵衛(著)

蓬左 A・尾記録

折本

一

*表紙見返しに「此冊小山甚兵衛私録候得共、文政六末年御記録所ニ納之」と記されている。

八一三 乗合問答

江戸 写

蓬左 A・日記所

縦

一

八一九 御紋考(文政八年成立)

文政二年写

竹尾次春(著)

蓬左 A・張府 B

縦

一

*松本正範による写。

八一〇六 (大塩平八郎後素始末)

江戸末期写

蓬左 A・張府 A

縦

一

八一二四 夕烟(夕煙)(寛政五年自序)

弘化四年写

人見奈(著)

蓬左 A・張府 A

縦

一

*昭和八年一〇月三日付「蓬左文庫蔵本」の貼紙あり。

九一二 普請目論見独案内

江戸 写

蓬左 A

縦

三

*昭和八年一〇月三日付「蓬左文庫蔵本」の貼紙あり。

九一六 大匠雛形(大工雛形)

享保二年刊
(明治九年後印)

鈴木正豊・本林常将(著)
須原屋茂兵衛ほか(版)

蓬左 A・徳図記

横

六

第一冊 宮雛形(鈴木正豊著)

第三冊 数寄屋雛形(本林常将著)

第二冊 武家雛形(本林常将著)

第四冊 棚雛形(本林常将著)

第五冊 小坪規矩(本林常将著)

第六冊 小坪規矩追加(本林常将著)

九一六 真行草大字典

明治二五、二六年刊

書学会(編)

蓬左 A・徳川

縦 七

*索引一冊・正篇行草三冊・続編三冊からなる。

九一八 (伊豆大嶋山焼事実)(安永八年)

江戸 写

江川担庵(著)

蓬左 A・尾府 A

縦 一

九二〇 津輕藩祖略記(津輕藩祖略記 附著述目録)

明治九年刊

兼松成言(編)

蓬左 A

縦 一

(活版)

下沢保躬(刊)

九二二 東海・木曾(両道中懷宝図鑑(懷宝図鑑))

明和二年刊

須原屋茂兵衛(版)

蓬左 A

縦・小 一

(天明六年後印)

九二三 經濟随筆(文政八年目序)

江戸 写

橋本敬簡(著)

蓬左 A・徳図記

縦 一

九二四 東北風説

写年未詳

肝付兼武(著)

日々新

縦 一

*別題「東北風談」。

九二七 内外一覽

明治八年刊

橋詰敏(編)

蓬左 A・徳川慶

折本 二

橋詰久寿次ほか(版)

勝

九二八 雲上明覽大全 慶応第三卯年改(年々改正 雲上明覽大全)

慶応三年刊

西本願寺光徳府(編)

蓬左 A

縦・小 二

竹原好兵衛ほか(版)

九二九 雲上明覽大全 嘉永四年辛亥夏改(年々改正 雲上明覽大全)

嘉永四年刊

西本願寺光徳府(編)

蓬左 A

縦・小 二

竹原好兵衛(版)

九三〇 (泰平万代 御三家方御附)

慶応三年刊

出雲寺萬次郎(版)カ

蓬左 A

縦・小 一

九三一 (泰平万代 大成武鑑)

慶応三年刊

出雲寺萬次郎(版)

蓬左 A

縦・小 三

*巻之二(御大名衆)・巻之三(御役人衆)・巻之四(西御丸御役人衆)のみ残存。

九三九 (改正 広徳武鑑)

明治元年刊

出雲寺文次郎ほか(版)

蓬左 A

横・小 一

九四〇 (列藩武鑑)

明治二年刊

須原屋茂兵衛(版)

蓬左 A

横・小 一

旧蓬左文庫所蔵史料目録(上)

番 号 表 題

刊写年

著者(作成者)

蔵書印

形態 数量

九一〇五 御国分武鑑

慶応四年刊

出雲寺文次郎ほか(版)

蓬左 A

横・小 一

九一〇六 華族類別譜

明治一一年刊
(明治一六年後印)

柴山典(編)
屏山書房(版)

蓬左 A

縦・小 二

九一三五 華族名鑑

明治九年刊

西村組出版局(版)

蓬左 A

横・小 一

九一三七 華族階級(華族階級 壬申五月改)

明治五年刊

須原屋茂兵衛ほか(版)

蓬左 A

横・小 一

九一三八 (職員録 二月朔日改)

明治初年刊

須原屋茂兵衛ほか(版)

蓬左 A

横・小 二

九一三〇 (職員録 辛未四月十日改)

明治四年刊

須原屋茂兵衛ほか(版)

蓬左 A

横・小 二

九一三三 (府県職員録 二月廿五日改)

明治初年刊

須原屋茂兵衛ほか(版)

蓬左 A

横・小 一

九一三六 明治官員録

明治一一年刊

大崎清里(編)
山口安兵衛ほか(版)

蓬左 A

横・小 一

九一三〇 明治官員録

明治一一年刊

大崎清里(編)
山口安兵衛ほか(版)

蓬左 A

横・小 一

九一三七 (改正 官員録)

明治一三年刊

彦根正三(版)

蓬左 A

横・小 二

*蔵書印は第二冊のみに押印。

一〇一四 逸事史補(明治一二年)

昭和九年刊

松平慶永(著)
松平慶民(発行)

蓬左 A

縦 一

一〇一四 春嶽遺稿

昭和三四四年刊
(活版)

松平慶永(著)
松平康莊(編・発行)

蓬左 A・徳蔵書

縦 四

一〇一四 巽嶽歌集

昭和三四四年刊
(活版)

松平茂昭(著)
松平康莊(編・発行)

蓬左 A・徳蔵書

縦 一

一〇一四 世外侯事歴 維新財政談

大正一〇年刊

沢田章(編)

蓬左 A・徳蔵書

縦 三

(活版) 岡百世(発行)
*井上馨の明治初年における財政事歴編さんのため、当時の故老の実歴談を編集したもの。

二〇一 日本制度通 明治二三年刊 萩野由之・小中村義象(著) 蓬左 A 縦 三
吉川半七(版)

*昭和七年九月三〇日付「蓬左文庫蔵本」の貼紙あり。

二〇二 参川記 写年未詳 蓬左 A 縦 一

*昭和八年六月一六日付「蓬左文庫蔵本」の貼紙あり。

二〇三 信濃奇勝録 明治二〇年刊 井出道貞(著) 孫通(版) 蓬左 A 縦 五

*昭和七年九月三〇日付「蓬左文庫蔵本」の貼紙あり。

二〇四 彩画職人部類 天明四年刊 橘珉江(著) 蓬左 A 縦 二
(大正五年覆刊) 風俗絵巻図画刊行会(版)

二〇五 (大日本国郡附全図) 江戸 写 蓬左 A・邸中 縦 四

二〇六 神領給人引付(外宮神領給人引付) 文政元年写 蓬左 A 縦 一

*河崎清厚による写。

二〇七 (遷宮筆海) 文化一五年写 蓬左 A 縦 一

*河崎清厚による写。別題「造宮使公文所筆海抄」。

二〇八 (寛永十二年 両宮師職出入) 江戸後期写 蓬左 A 縦 一

二〇九 (両宮銘論 八月廿九日ヨリ九月廿九日マテ引留)(寛永一 寛文一二年写 蓬左 A 縦 一
一年)

*度会忠悦による写。

二一〇 造内宮記(造内宮記 文安・寛正) 天保五年写カ 蓬左 A 縦 一

*末尾の見返しに「天保五年五月晦日・同六月朔日 以中西家所蔵本書比較了 末矩」という朱書あり。

二一一 治水積方必携 明治一八年刊 山崎藤左衛門(編・発行) 蓬左 A 縦 二

旧蓬左文庫所蔵史料目録(上)

番 号 表 題

刊写年

著者(作成者)

蔵書印

形態

数量

(活版)

二一 罌 金森断絶記

文政一三年写

能満村 森山姓(著)

蓬左 A

縦

一

二一 罌 岷山先生治水伝(天保四年成稿)

昭和六年写

沢重清(著)

蓬左 A

縦

一

二一 罌 反正雜記草稿(江戸後期成稿)

昭和七年写

富永忠済(著)

蓬左 A

縦

一

二一 罌 禁秘録 禁他見(嘉永、安政年間)

昭和七年写

富永忠済(著)

蓬左 A

縦

二

*勘弁書・建言書などを書き留めたもの。

二一 罌 (静岡藩御役人附)

明治初年刊

蓬左 A

縦

一

*三枚の刷物を合綴したもの。

二一 罌 木曾路之記(宝永六年跋)

江戸中期刊

貝原信篤(著)

蓬左 A

縦・小

一

*昭和八年五月一三日付「蓬左文庫蔵本」の貼紙あり。

二一 罌 新板 東海道・木曾路道中記

延享四年刊

大和屋市兵衛ほか(版)

蓬左 A

横・小

一

*昭和七年九月三〇日付「蓬左文庫蔵本」の貼紙あり。別題「諸国海陸道中記」。

二一 罌 (木曾街道図絵)

明治二七年刊

蹄斎北馬(画)
博文館(版)

蓬左 A

横・小

二

二一 罌 信濃国地誌略

明治一三年刊

長野県(編)
高美甚左衛門ほか(版)

蓬左 A

縦

二

二一 罌 信濃地名考

安永二年刊

吉沢鶏山(編)
須原屋茂兵衛(版)

蓬左 A

縦

三

二一 罌 国史綜覧稿

明治三九年刊
(活版)

安野安繹(著)
静嘉堂文庫(発行)

蓬左 A

縦

一〇

*昭和一一年一月一六日付「蓬左文庫蔵本」の貼紙あり。静嘉堂文庫より寄贈されたもの。

二一〇六 川々江出候御船御定

江戸末期写

蓬左 A

縦

二

*昭和二年四月二九日付「蓬左文庫蔵本」の貼紙あり。

二一二三 康富記(康富記)

江戸中期写

中原康富(著)

蓬左 A

縦

二〇

*第一四冊の冒頭に「瑞龍院様 写本 康富記一拾冊」と書かれた紙片がはさみ込まれている。

第一冊 応永八年五月・六月 同三年八月・一〇月 同七年正月・閏正月

第二冊 応永二六年二月・三月

第四冊 応永二九年正月 同年一月・二月

第六冊 嘉吉三年四月・六月

第八冊 文安元年七月・十一月

第一〇冊 文安五年正月・二月

第二二冊 宝徳元年閏一〇月 同二年七月

第一四冊 宝徳元年八月・九月 同二年五月・六月 同三年八月・九月

第二六冊 宝徳二年八月・九月

第一八冊 宝徳三年一〇月・十二月 享徳四年正月

第二〇冊 享徳三年正月・二月 同四年七月 康正元年八月・十一月

二一二四 善光寺道名所図会

嘉永二年刊

豊田利忠(著)

蓬左 A

縦

五

美濃屋伊六(版)

二一二五 木曾路名所図会

文化二年刊

秋里籬島(編)

蓬左 A

縦

七

河内屋喜兵衛ほか(版)

二一二六 都名所図会

安永九年刊

秋里籬島(編)

蓬左 A・張府 A

縦

六

(天明六年後印)

河内屋太助ほか(版)

二一二七 江戸名所図会

天保五・七年刊

斎藤幸雄・幸孝・幸成(編)

蓬左 A・邸中

縦

二〇

須原屋茂兵衛ほか(版)

*第一冊・第二〇冊が天保五年刊、第一一冊・第二二冊が天保七年刊。邸中の蔵書印は第三冊・第四冊・第六冊・第七冊・第一七冊のみ。

旧蓬左文庫所蔵史料目録(上)

番 号 表 題

刊 写 年

著 者 (作 成 者)

蔵 書 印

形 態

数 量

第一冊―第三冊	卷之一(天枢之部)	第四冊―第六冊	卷之二(天璇之部)		
第七冊―第一〇冊	卷之三(天璣之部)	第一冊―第一三冊	卷之四(天權之部)		
第一四冊―第一五冊	卷之五(玉衡之部)	第二六冊―第一七冊	卷之六(開陽之部)		
第一八冊―第二〇冊	卷之七(摇光之部)				
二二六	新編江戸名所図誌・同後編(江戸名所図誌前編・同後編)	江戸後期写	懷山子(編)	蓬左 A・張府 A	縦 九

*前編卷之一・卷之四、五は欠本。

第一冊	前編卷之一	第二冊	前編卷之三
第三冊	前編卷之六	第四冊	後編卷之一
第五冊	後編卷之二	第六冊	後編卷之三
第七冊	後編卷之四	第八冊	後編卷之五
第九冊	後編卷之六・卷之七		

二一六	武江創業録	江戸中期写	山下道三(著)	蓬左 A・尾府 A	縦 一
-----	-------	-------	---------	-----------	-----

*「武江創業録」「慶長録」を収める。松平君山による写。

二一四	創業録引証	江戸中期写	山下道三(著)	蓬左 A・尾府 A	縦 一
-----	-------	-------	---------	-----------	-----

*「創業録引証」「慶長録考異」「創業録武江追加」を収める。松平君山による写。

二一四	安土創業録(創業録)	江戸中期写	山下道三(著)	蓬左 A・尾府 A	縦 一
-----	------------	-------	---------	-----------	-----

*「安土創業録」「難波創業録」を収める。

二一四	〔下り 木曾道中記 元彰所持〕	弘化五年写		蓬左 A	横半 一
-----	-----------------	-------	--	------	------

*「木曾路名所図会」からの抜書帳。昭和二年一月付「蓬左文庫蔵本」の貼紙あり。

二一五	〔公義 御軍役積〕	写年未詳		蓬左 A	横・小 一
-----	-----------	------	--	------	-------

*昭和二年一月四日付「蓬左文庫蔵本」の貼紙あり。

三二五 農家必要 地方往来 江戸後期刊カ 縦 一

*昭和二年一月四日付「蓬左文庫蔵本」の貼紙あり。

三二五 (尾州役付分限帳) 江戸 写 蓬左 A 縦 一

*昭和八年一月二六日付「蓬左文庫蔵本」の貼紙あり。

三二五 (尾張分限帳) 江戸 写 蓬左 A 縦 一

*「松平薩摩守忠吉卿御家中分限記」「清須分限帳」「平岩主計頭親吉家中」「源敬様御代御家中知行高之覚」「源敬公大坂陣御供之衆拝借」の五種を収める。
昭和八年二月一日付「蓬左文庫蔵本」の貼紙あり。

三二五 甘辛録(天保一〇年頃成稿) 江戸後期写 此君園主人〔著〕 蓬左 A 縦 六

*昭和二年一月四日付「蓬左文庫蔵本」の貼紙あり。

三二五 (御国奉行所ニ而今般御裁許被仰付候御書付写巻通并 宝暦四年写 蓬左 A 縦 一

ニ守山村百姓中就是ニ乍恐口上書巻通)(宝暦四年)

*昭和二年一月四日付「蓬左文庫蔵本」の貼紙あり。

三二五 稲姫様 御祝言御道具諸色金物帳(元禄一三年) 文政七年写 かざりや六左衛門↓大奉行 渡辺十左衛門様 蓬左 A 横 一

*かざりや六左衛門の家記を梁川兵吉郎源通が書き写したものの。昭和二年一月四日付「蓬左文庫蔵本」の貼紙あり。

三二五 信濃奇談(文政一一年跋) 江戸 刊 中村元恒〔著〕 堀内元鎧 〔編〕 矢野平兵衛〔版〕カ 蓬左 A 縦 二

*上下二冊がこよりで綴られている。昭和二年一月四日付「蓬左文庫蔵本」の貼紙あり。

三二五 (大河内新田検地帳)(寛文九年) 文化八年写カ 中西助太夫ほか三名↓庄や 次郎右衛門とのへ 蓬左 A 縦 一

*見返しに「文化八末年八月日飯塚弥兵衛殿より」と記された貼紙あり。昭和二年一月四日付「蓬左文庫蔵本」の貼紙あり。

三二五 年内諸事留帳(質屋仲間年内諸事留帳)(天保二、文久三年) 後藤甚蔵〔筆〕 蓬左 A 横・小 一

三二五 御達御触請取之扣(御達御触請取之扣 石仏村庄屋)(文久 庄屋 林右衛門〔筆〕 蓬左 A 縦 一

旧蓬左文庫所蔵史料目録(上)

番号表題

刊写年

著者(作成者)

蔵書印

形態

数量

二年)

* 昭和八年二月一日付「蓬左文庫蔵本」の貼紙あり。

三一六 〔石仏村御用留〕(文久二年)

* 昭和八年二月一日付「蓬左文庫蔵本」の貼紙あり。

三一六 愛知郡石仏村縁組御願帳(石仏村文書一)(文久三年)

* 内容は御用留に近似する。昭和八年二月一日付「蓬左文庫蔵本」の貼紙あり。

三一七 愛知郡石仏村藤成新田縁組御願帳(石仏村文書)(慶応二

〜明治二年)

* 内容は御用留に近似する。昭和八年二月一日付「蓬左文庫蔵本」の貼紙あり。

三一七 広井村御用留(文政五〜天保四年)

* 昭和八年二月一日付「蓬左文庫蔵本」の貼紙あり。

善右衛門(筆)

三一七 村中人数書上帳 愛知郡石仏村藤成新田(村中人数書上

帳 石仏村)(文久四年)

* 後半は願書留として用いられている。昭和八年二月一日付「蓬左文庫蔵本」の貼紙あり。

三一七 御普請一件留

江戸 写

A

縦

三

三一七 続岩淵夜話重校附録(安永六年自序)

江戸中期写

近松茂矩(著)

蓬左 A・張府 B

縦

六

* 巻之二〜巻之七のみ残存。加藤金弥雅辰による写。表紙見返しに「五味末吉氏寄贈」と記された貼紙あり。

三一七 続岩淵夜話附録全(続岩淵夜話重校附録 巻之一)(安永 文久二年六月写

近松茂矩(著)

蓬左 A

縦

一

六年自序)

三一七 新聞雑誌

明治四〜七年刊

日新堂(刊)

蓬左 A

縦

六

第一冊 第老号ノ第三十二号(明治四年五月ノ同五年二月)
 第三冊 第二百九号ノ第二百五十号(明治七年三月ノ同年五月)
 第五冊 第二百九十一号ノ第三百三十号(明治七年八月ノ同年十一月)
 第六冊 第三百三十一号ノ第三百五十六号(明治七年十一月ノ同年十二月)

一四一 玉露叢(延宝二年自序)

江戸 写

蓬左A・張府B 縦

四二

第一冊 慶長三年ノ同五年
 第三冊 慶長一六年二月ノ同一九年九月
 第五冊 慶長二〇年正月ノ元和元年
 第七冊 將軍家御上洛記
 第九冊 家光公御上洛記
 第一冊 寛永一三年朝鮮人來朝記
 第三冊 寛永一六年ノ正保二年
 第五冊 万治元年ノ寛文三年
 第七冊 寛文三年ノ同四年
 第九冊 寛文八年ノ同九年三月
 第二冊 寛文一〇年
 第三冊 寛文一二年
 第五冊 延宝二年
 第七冊 延宝四年
 第九冊 延宝六年
 第二冊 延宝八年ノ同九年
 第三冊 延宝八年
 第三五冊 神社
 第三七冊 延宝二年分參勤御暇之扣上
 第三九冊 延宝三年分參勤御暇之扣上

第二冊 第七十三号ノ第一百二号(明治六年一月ノ同年五月)
 第四冊 第二百五十一号ノ第二百九十号(明治七年五月ノ同年八月)

第二冊 慶長四年ノ同一五年
 第四冊 慶長一九年一〇月ノ同年二月
 第六冊 元和二年ノ寛永三年
 第八冊 御即位記
 第一〇冊 寛永一二年ノ同一三年
 第二冊 寛永一四年二月ノ同一五年正月
 第一四冊 正保五年ノ明曆四年
 第一六冊 寛文三年
 第一八冊 寛文五年ノ同七年
 第二〇冊 寛文九年四月ノ同年一二月
 第二冊 寛文一一年
 第二四冊 寛文一三年(延宝元年)
 第二六冊 延宝三年
 第二八冊 延宝五年
 第三〇冊 延宝七年
 第三二冊 延宝八年
 第三四冊 寺院
 第三六冊 御軍役之次第ほか
 第三八冊 延宝二年分參勤御暇之扣下
 第四〇冊 延宝三年分參勤御暇之扣下

番 号 表 題

刊写年

著者(作成者)

蔵書印

形態

数量

第四一冊 年中御当家式時之服 年中式時次第上

一五一 二 新撰豊臣実録(豊臣実録)

江戸 写

第四二冊 年中式時次第下

大原武清(著)

蓬左 A

縦 四〇

第一冊 総目

第三冊 卷第二(秀吉履歴年譜部)

第五冊 卷第四(秀吉履歴年譜部)

第七冊 卷第六(秀吉上洛ほか)

第九冊 卷第八(秀吉播州姫路祝新年ほか)

第十一冊 卷第十(勝家自殺信孝衰滅ほか)

第十三冊 卷第十二(滝川一益略尾州蟹江壘ほか)

第十五冊 卷第十四(秀吉任関白ほか)

第十七冊 卷第十六(羽柴秀長等発向筑紫ほか)

第十九冊 卷第十八(秀吉封小西行長加藤清正於肥後ほか)

第二一冊 卷第廿(南明院薨ほか)

第二三冊 卷第廿二(北条家敗兆前知部ほか)

第二五冊 卷第廿四(後陽成帝再行幸聚落ほか)

第二七冊 卷第廿六(秀吉祝元旦於名護屋ほか)

第二九冊 卷第廿八(内藤如安応対部ほか)

第三一冊 卷第卅(秀次党与誅放ほか)

第三三冊 卷第卅二(我兵再渡朝鮮部ほか)

第三五冊 華概卷之一(三將軍系図目録)

第三七冊 華概卷之三(諸家系図目録)

第三九冊 華概卷之五(本朝歴代王都ほか)

一六一 八 津軽紀譚(弘化四年自序)

弘化四年写

小山内建本(著)

蓬左 A

縦

二

一六一 九 (津軽歴代前記類)

明治 写

蓬左 A

縦

一

一八一〇 (津輕歴代記類) 明治 写 蓬左 A 縦 七

一八一二 (津輕藩旧記伝類) 明治 写 蓬左 A 縦 九

第一冊 津輕藩旧記伝類目録

第三冊 第二号(公族之部・夫人之部)

第五冊 第四号(藩士之部)

第七冊 第六号(藩士之部)

第八冊 第七号(文学之部・兵学之部・弓術之部・馬術之部・剣術之部・槍術之部・炮術之部)

第九冊 第八号(諸礼之部・孝義之部・勸農之部・歌人之部・画師之部・僧侶之部・茶道之部・工芸之部・俳諧之部・反人之部)

一八一三 津輕順承公略伝稿(津輕順承公略伝) 写年未詳 蓬左 A 縦 一

一八一三 津輕承昭公略伝稿(津輕承昭公略伝) 写年未詳 蓬左 A 縦 二

一八一四 御用之御書扣・御自筆御書扣(信政公御真筆之写)(元禄 江戸中期写 津輕信政(編)) 縦 一

一五(宝永五年)

*元禄一五・一六・一七年の「御用之御書扣」と宝永五年の「御自筆御書扣」を合綴したもの。

一八一五 南部故実拔萃 写年未詳 菊地金吾(著) 蓬左 A 縦 一

一八一六 津輕家旧記抜録 自嘉永六至慶応三年 写年未詳 蓬左 A 縦 一

一八一七 津輕制度略 写年未詳 蓬左 A 縦 二

一八一八 (旧藩記事)(津輕藩) 大正五年写 蓬左 A 縦 一四

第一冊 旧藩記事(嘉永六(慶応三年))

第三冊 第二 戊辰年間旧藩記事(慶応四年四月(五月))

第五冊 第四 戊辰年間旧藩記事(慶応四年八月(明治元年九月))

第七冊 第六 戊辰年間旧藩記事(明治元年一月(二月))

第九冊 第八 己巳年間旧藩記事(明治二年三月(四月))

第一一冊 第拾 己巳年間旧藩記事(明治二年六月(二月))

第二冊 第一 戊辰年間旧藩記事(慶応四年正月(三月))

第四冊 第三 戊辰年間旧藩記事(慶応四年六月(七月))

第六冊 第五 戊辰年間旧藩記事(明治元年一〇月)

第八冊 第七 己巳年間旧藩記事(明治二年正月(二月))

第一〇冊 第九 己巳年間旧藩記事(明治二年五月)

第二二冊 第十一 庚午年間旧藩記事(明治三年正月(五月))

番号表 題

刊写年

著者(作成者)

蔵書印

形態

数量

第三冊 第十二 庚午年間旧藩記事(明治三年六月〜十二月)

第一四冊 第十三 結尾 辛未年間旧藩記事(明治四年正月〜七月)

一八一九 信政公御意之筋聞伝集(享保二年序)

江戸 写

蓬左 A

縦

一

一八二〇 津軽孝公行実

江戸 写

蓬左 A

縦

一

一八二三 (無超記(孝公行実)(後欠)

江戸 写

蓬左 A

縦

一

一八三三 (弘前御勘定所規則書・弘前御勘定所御用編集帳)

江戸 写

佐藤忠左衛門(編)

蓬左 A

縦

二

一八三三 旧藩官制(旧藩官制(津軽藩)

明治 写

工藤主善(著)

蓬左 A

縦

一

一八三三 旧藩職制(旧藩職制(津軽)

明治 写

工藤主善(編)

蓬左 A

縦

一

一八三三 江戸御屋鋪中御定書(江戸御屋敷中御定書)(津軽藩・寛文二〜延宝四年)

江戸 写

蓬左 A

縦

二

一八三六 (武家諸法度)(公儀法度留・元和〜寛文)

江戸 写

蓬左 A

縦

一

一八三七 (御覚書)(津軽藩触達留・寛文四〜延宝三年)

江戸 写

蓬左 A

縦

三

一八三六 (安民耕話)

写年未詳

蓬左 A

縦

一

三三一 (狂言全集)

明治三六年刊
(活版)

幸田成行(校訂)
博文館(版)

蓬左 A

横・小

三

*「金湯文庫」(徳川義禮の蔵書)のラベルあり。

三三一 二 (高安流謡本)

明治三八年写

蓬左 A

縦

三八

*各冊の末尾に高安流家元後見職西村敬光による高安流家元相伝の正本からの謄写・校閲を証する奥書あり。

第一冊 高砂・田村・東北・芦刈・鶴飼

第二冊 弓八幡・八島・湯谷・盛久・殺生石

第三冊 老松・鯨・野々宮・百万・融

第四冊 嵐山・兼平・井筒・三井寺・土蜘蛛

第五冊 白髭・清経・松風・藤渡・紅葉狩

第六冊 岩船・忠渡・千手・女郎花・黒塚

第七冊 加茂・玉葛・誓願寺・船橋・舍利

第八冊 金札・頼政・杜若・東岸居士・船弁慶

第九冊 白楽天・浮船・定家・天鼓・谷行
 第一冊 源太夫・花月・西行桜・富士太鼓・聖寺
 第三冊 放生川・実盛・二人静・春栄・項羽
 第五冊 富士山・通小町・梅坂・隅田川・鍾馗
 第七冊 邯鄲・源氏供養・采女・柏崎・春日龍神
 第九冊 龍田・自然居士・楊貴妃・道成寺・海士
 第二冊 難波・敦盛・仏原・花筐・羅生門
 第三冊 淡路・碇潜・半部・歌占・現在鶴
 第五冊 大社・生田敦盛・雲林院・摂待・鶴
 第七冊 佐保山・経政・夕顔・正尊・昭君
 第九冊 西王母・弱法師・小原行幸・張良・雷電
 第三冊 和布狩・住吉詣・木賊・松虫・葛城天狗
 第三冊 絵馬・元服曾我・胡蝶・巻絹・夜討曾我
 第五冊 感陽宮・竹の雪・祇王・俊寛・一角仙人
 第七冊 雨月・三山・草紙洗・七騎落・大会

第一〇冊 養老・龍太鼓・芭蕉・唐船・小鍛冶
 第二冊 竹生島・錦木・江口・檀風・山姥
 第四冊 呉服・通盛・羽衣・鉢木・熊坂
 第六冊 国柄・烏頭・関寺小町・葵上・当麻
 第八冊 三輪・藤永・卒都婆小町・阿漕・是界
 第二〇冊 蟻通・朝長・小塩・安宅・狸々
 第三冊 水室・巴・吉野静・石橋・絃上
 第四冊 志賀・俊成忠度・遊行柳・鍬輪・鞍馬天狗
 第六冊 右近・知章・伯母捨・桜川・大江山
 第八冊 玉の井・鳥追船・六浦・大仏供養・松山鏡
 第三〇冊 鶴亀・蟬丸・葛城・望月・飛雲
 第三二冊 東方朔・放下僧・桧垣・枕土童・烏帽子折
 第三四冊 皇帝・小督・斑女・景清・禅師曾我
 第三六冊 大蛇・愛染川・鸚鵡小町・調伏
 第三八冊 道明寺・土車・雲雀山・現在七面・橋弁慶

三十一 三 孝明天皇紀

明治三十九年刊
 (活版)

蓬左 A

縦

二二〇

*第二二〇冊の「孝明天皇紀附図目録全」は、第二冊後半の「附図目録」とほぼ同内容の別本。

第一冊 首巻上(摘要目録)
 第三冊 巻一〜巻二(天保一〜天保一〇年)
 第五冊 巻五〜巻六(弘化元〜弘化二年)
 第九冊 第一三冊 巻十三〜巻二十(弘化四年)
 第二一冊 第二二冊 巻三十三〜巻三十六(嘉永二年)
 第二五冊 巻四十一〜巻四十二(嘉永四年)
 第二九冊 第三二冊 巻四十九〜巻五十六(安政元年)

第二冊 首巻下(引用書目・附図目録)
 第四冊 巻三〜巻四(天保一〜天保一四年)
 第六冊 第八冊 巻七〜巻十二(弘化三年)
 第二四冊 第二一〇冊 巻二十一〜巻三十二(嘉永元年)
 第三三冊 第二四冊 巻三十七〜巻四十(嘉永三年)
 第二六冊 第二八冊 巻四十三〜巻四十八(嘉永五〜嘉永六年)
 第三三冊 第三八冊 巻五十七〜巻六十七(安政一〜安政三年)

旧蓬左文庫所蔵史料目録(上)

二三

番 号 表 題

刊 写 年

著 者 (作 成 者)

蔵 書 印

形 態

数 量

第三九冊―第四一冊 卷六十八―卷七十三(安政四年)
第五一冊―第五五冊 卷九十二―卷百一(安政六年)
第六一冊―第六六冊 卷百十二―卷百二十三(文久元年)
第八〇冊―第九五冊 卷百四十九―卷百七十五(文久三年)
第一二〇冊 孝明天皇紀附図目録全

第四二冊―第五〇冊 卷七十四―卷九十一(安政五年)
第五六冊―第六〇冊 卷百一―卷百十一(万延元年)
第六七冊―第七九冊 卷百二十四―卷百四十八(文久二年)
第九六冊―第一一九冊 卷百七十六―卷二百二十(元治元―慶応二年)

二四―五 天寛日記

江 戸 写

蓬 左 A

縦

一〇五

第一冊 卷之一(惣目録)
第三冊―第六冊 卷之三―卷之六(天正一九年)
第八冊―第十一冊 卷之八―卷之十一(文禄二年)
第十五冊 卷之十五(文禄四年)
第十七冊 卷之十七(慶長二年)
第二〇冊―第二二冊 卷之二十―卷之二十一(慶長四年)
第二八冊―第二九冊 卷之二十八―卷之二十九(慶長六年)
第三二冊―第三三冊 卷之三十二―卷之三十三(慶長八年)
第三五冊―第三六冊 卷之三十五―卷之三十六(慶長一〇年)
第三九冊―第四〇冊 卷之三十九―卷之四十(慶長一二年)
第四三冊―第四四冊 卷之四十三―卷之四十四(慶長一四年)
第四八冊―第四九冊 卷之四十八―卷之四十九(慶長一六年)
第五二冊―第五三冊 卷之五十二―卷之五十三(慶長一八年)
第六二冊―第六九冊 卷之六十二―卷之六十九(元和元年)
第七三冊―第七四冊 卷之七十三―卷之七十四(元和三年)
第七七冊―第七八冊 卷之七十七―卷之七十八(元和五年)
第八一冊 卷之八十一(元和七年)
第八四冊―第八五冊 卷之八十四―卷之八十五(元和九年)

第二冊 卷之二(天正一八年八月―二月)
第七冊 卷之七(文禄元年)
第二二冊―第一四冊 卷之十二―卷之十四(文禄三年)
第一六冊 卷之十六(慶長元年)
第一八冊―第一九冊 卷之十八―卷之十九(慶長三年)
第三二冊―第二七冊 卷之二十二―卷之二十七(慶長五年)
第三〇冊―第三二冊 卷之三十一―卷之三十二(慶長七年)
第三四冊 卷之三十四(慶長九年)
第三七冊―第三八冊 卷之三十七―卷之三十八(慶長一一年)
第四一冊―第四二冊 卷之四十一―卷之四十二(慶長一三年)
第四五冊―第四七冊 卷之四十五―卷之四十七(慶長一五年)
第五〇冊―第五一冊 卷之五十―卷之五十一(慶長一七年)
第五四冊―第六一冊 卷之五十四―卷之六十一(慶長一九年)
第七〇冊―第七二冊 卷之七十―卷之七十二(元和二年)
第七五冊―第七六冊 卷之七十五―卷之七十六(元和四年)
第七九冊―第八〇冊 卷之七十九―卷之八十(元和六年)
第八二冊―第八三冊 卷之八十二―卷之八十三(元和八年)
第八六冊―第八七冊 卷之八十六―卷之八十八(寛永元年)

第八八冊―第八九冊 卷之八十八―卷之八十九(寛永二年)

第九三冊―第九四冊 卷之九十三―卷之九十四(寛永四年)

第九八冊―第一〇〇冊 卷之九十八―卷之百(寛永六年)

第一〇四冊―第一〇五冊 卷之百四―卷之百五(寛永八年)

第九〇冊―第九二冊 卷之九十―卷之九十二(寛永三年)

第九五冊―第九七冊 卷之九十五―卷之九十七(寛永五年)

第一〇一冊―第一〇三冊 卷之百一―卷之百三(寛永七年)

二五―二七 泰平年表(天保一二年序)

天保一三年写

忍屋隠士(著)

縦 四

二五―二三 徳川義宜家記

写年未詳

第一冊 問合ノ答書・慶勝履歴草稿

第三冊 斬姦筆記(事蹟書附録)

第五冊 勤王誘引筆記三・四

第二冊 事蹟書一・事蹟書七

第四冊 勤王誘引筆記一・二

縦 五

二五―二四イ 従三位様(徳川義宜年譜)

明治 写

*「維新史177」のラベルあり。

縦 一

二五―二四ロ 徳川義宜事略

明治 写

*「維新史176」のラベルあり。

縦 一

二五―二四ハ 徳川茂栄公・義宜公年譜稿

明治 写

縦 一

二五―二五 尾藩事略

写年未詳

川口瀧(著)

縦 四

第一冊 卷一(敬公)

第二冊 卷二―卷三(瑞龍公・泰心公・円覚公・真厳公・晃禅公・章善公・戴公・明公・順公・僖公・懿公・欽公)

第三冊 卷四―卷五(文公・頭樹公・靖公)

第四冊 尾藩事略索引人名之部 未定稿

二五―二六 文公御実紀附録

写年未詳

*「維新史182」のラベルあり。

第一冊 卷一(天保一〇年)

第三冊 卷三(安政三年以後)

第二冊 卷二(嘉永二年)

第四冊 卷四(安政五年以後)

縦 九

番号表題

刊写年

著者(作成者)

蔵書印

形態数量

第五冊 巻五(元治元年)

第六冊 巻六(慶応元年)

第七冊 巻七(慶応二年)

第八冊 巻八(慶応三年)

第九冊 巻九(明治元年)

二五―三 文公自書類纂

写年未詳

縦 六

*「維新史47」のラベルあり。

第一冊 巻一(嘉永四年)

第二冊 巻二(嘉永五年)

第三冊 巻三(嘉永六年)

第四冊 巻四(安政元年)

第五冊 巻五(安政二年)

第六冊 巻六(安政三年)

二五―三 聿脩叢書 尾張侯往復書簡(嘉永二―安政五年)

昭和一九年写

蓬左A

縦 二

*水戸徳川家所蔵本からの謄写。「維新史13」のラベルあり。

二六―一 文公逸事草稿

写年未詳

縦 一

*「維新史44」のラベルあり。

二六―二 従一位公御事歴続

写年未詳

縦 一

*「維新史34」のラベルあり。

二六―三 一位公・三位公御年表(嘉永二―明治八年)

写年未詳

縦 一

*「維新史35」のラベルあり。

二六―五 慶勝公御年譜草稿

写年未詳

縦 二

*「維新史45」のラベルあり。

二六―六 事蹟書草案(三世紀事略稿本)

写年未詳

縦 六

*「維新史132」のラベルあり。

二六―七 徳川文公伝稿本

写年未詳

川口嵩(著)

縦 一

*「維新史40」のラベルあり。

三―九 文公年表

写年未詳

蓬左A

縦 一

*「維新史43」のラベルあり。

三―二 文公逸事

明治三二年筆

尾崎良知(著)

蓬左A

縦 一

*「維新史42」のラベルあり。

三―三 従一位勲二等徳川文公行状(文公行状)

明治二九年筆

尾崎良知(著)

蓬左A

縦 一

*「維新史41」のラベルあり。

三―一五 (三世紀事略訂正案)

大正元年筆

植松安(著)

縦 一

三―一六 (三世紀事略)(卷二欠)

明治四四年写

縦 六

*野村智則による写。卷二は維新史料編纂事務局へ貸与中に大正二二年の関東大震災に遭い焼失した。「維新史133」のラベルあり。

第一冊 三世紀事略例言(例言・目次・文公紀事略卷二)

第二冊 文公紀事略卷三

第三冊 文公紀事略卷四

第四冊 頭樹公紀事略・靖公紀事略

第五冊 紀事略附録上

第六冊 紀事略附録下

三―二三 (諫争録)(嘉永四年竹腰兵部少輔上書)

写年未詳

竹腰兵部少輔(著)

縦 一

*「維新史51」のラベルあり。

三―二五 (秦寿茶話)(卷一のみ)

江戸末期写

秦世寿(著)

国主・源慶恕

縦 一

*徳川慶勝による写。「維新史65」のラベルあり。

三―二五 督府征長紀事

写年未詳

蓬左A

縦 二

三―二七 (御維新以来之記)

明治 写

第一冊 戊辰正月より五月迄 御維新以来之記一 扣

第二冊 証書留 扣

第三冊 戊辰十一月より十二月まで 御維新以来之記四 扣

第四冊 御維新以来 己巳之記五 扣

第五冊 庚午・辛未・壬申・癸酉 御維新以来之記六 扣

第六冊 庚午・辛未 御維新以来之記遺漏増補 扣

番 号 表 題

二六―二六 新聞謄録

*「維新史146」のラベルあり。

刊写年
明治 写

著者(作成者)

蔵書印
蓬左 B

形態
縦 数量
八

第一冊 慶応二年二月〜五月

第三冊 慶応元年冬長州詰問 慶応二年五月〜六月

第五冊 慶応二年七月〜八月

第七冊 慶応二年一〇月〜慶応四年正月

二六―四四 (触状留)

天保二〜一〇年筆

第一冊 天保二年

第三冊 天保四年

第五冊 天保六年

第七冊 天保八年上

第九冊 天保九年

第二冊 天保三年

第四冊 天保五年

第六冊 天保七年

第八冊 天保八年下

第一〇冊 天保一〇年

縦 一〇

二六―六六 (遊女濃安都)(享保〜明和)

写年未詳

縦 一

*天保一一年の尾崎某による写本を転写したもの。

二六―八二 (名古屋天主記録)

写年未詳

縦 一

*名古屋城天守からの眺望を彩色図で示したもの。

二六―八三 永世賞典録取調帳

明治四年筆

名古屋県(編)

縦 一

二六―八四 (勤王誘引記事)

明治 写

縦 一

二六―八五 世統一世紀子(嘉永四〜安政四年)

写年未詳

縦 一

*「維新史38」のラベルあり。

二六―八六 勤王誘引筆記

明治 写

縦 五

*半紙判の巻一〜巻四と美濃判の「巻一附」(別系統の写本)からなる。巻三に「維新史100」のラベルあり。

二六―二〇九 焚余手翰(嘉永五〜安政元年)

*「維新史14」のラベルあり。

写年未詳

蓬左B

縦 三

二六―二一〇 (文公御書状写)

*「維新史11」のラベルあり。

大正元年写

縦 五

二六―二二 御直書目録

*「維新史210」のラベルあり。

写年未詳

縦 一

二六―二三 午三月 従一位様御東下留(従一位様御東下留)

*「維新史33」のラベルあり。

明治三年筆

縦 一

二六―二四 前大納言様御登板一卷

*「維新史93」のラベルあり。

慶応二年筆

御供 御小納戸頭取

縦 一

二六―二六 慶応三年諸聞書

明治初年写

縦 一

二六―二五 禁裏御造宮之際往復書(安政元〜二年)

*「維新史16」のラベルあり。

写年未詳

縦 一

二六―二〇 浮浪一条(元治元年水戸浪士拳兵一件)

*「維新史124」のラベルあり。

写年未詳

縦 二

二六―二四 江戸御屋敷邸宅調査書

大正八年筆

縦 一

二六―二五 安政三丙辰八月廿六日夜 江戸大風雨通用集(江戸大風雨通用集)

写年未詳

縦 一

二六―二六 明治元戊辰ニ起 異宗門之徒御預ノ件(異宗門之徒御預之件)

*「維新史72」のラベルあり。

写年未詳

縦 一

二六―二五 御領地調査稿

写年未詳

縦 一

旧蓬左文庫所蔵史料目録(上)

番 号 表 題

刊 写 年

著 者 (作 成 者)

蔵 書 印

形 態 数 量

二六―四 御上書

江 戸 写

縦 一

*「御上書」(嘉永六年)と「有徳公上意」を収載。

二六―五 文久二戊 小塚理三郎筆記(献金残御指留一条)

文久二年筆

小塚理三郎(筆)

縦 一

二六―六 庚午八月 社寺民戸数御届(明治三年 社寺民戸数御届)

写年未詳

縦 一

二六―七 御相統以来 御日記類抜抄(嘉永二丁万延元年)

写年未詳

縦 一

*「維新史32」のラベルあり。

二六―八 故正二位茂栄様御事歴書抜(茂栄様御事歴書抜)

明治 写

縦 一

二六―九 古帳簿之中 成瀬正肥并千賀與八郎略歴(成瀬正肥・千賀與八郎略歴)

明治三〇年筆

徳川邸 庶務課(編)

縦 一

二六―一〇 幕府始末

明治二八年刊
(活版)

勝安房(著)
国光社(発行)

徳図記

縦 一

二六―一一 「神力丸一条」

写年未詳

縦 一

*「神力丸一条」と「海防ニ関スル諸達等」を収載。「維新史110」のラベルあり。

二六―一二 京客日記(文久三年)

明治一五年写

須加井鍵三郎(著)

蓬左 A

縦 一

*大尾に永井鉄太郎所蔵本より謄写した旨の奥書あり。

二六―一三 慶応二年辰八月ヨリ 御布告書

昭和一五年写

銃士締局(編)

蓬左 A

縦 一

*大尾に大津直行遺族所蔵本より謄写した旨の奥書あり。

二六―一四 (古記録書抜)(慶応四丁明治初年)

昭和一五年写

蓬左 A

縦 四

*大尾に大津直行遺族所蔵本より謄写した旨の奥書あり。

二六―一五 (慶勝公告諭 慶応三年二月七日家臣へ被下)

昭和一六年写

徳川慶勝(著)

蓬左 A

縦 一

*大尾に大津直行遺族所蔵本より謄写した旨の奥書あり。

二六―三二 (丹羽賢履歴書)

写年未詳

蓬左 A

縦 一

二六―三三 長州征伐御供ノ輩新田金下附御願一件書類(元治元年
長州征伐御供之輩新田金下附願一件)

元治元年写

蓬左 A

縦 一

*末尾に「前大納言様御供之輩御新田金被下捨相成候付人別書出」ほか三点の文書を袋入りで添付する。

二六―三四 慶応四辰年五月於太田駅吟味取計 大納言様御供人数
(明治元年 太田駅吟味 大納言様御供人数)

慶応四年筆

軍事局(編)

蓬左 A

縦 一

二六―三五 文久三年大納言様 御供上京中諸記録

明治四三年写

御徒格 御用人支配 山田数
馬(著)

蓬左 A

縦 一

*奥村定による写。

二七―四 嘉永三庚戌秋 大風雨書類(嘉永三年 大風雨書類)

写年未詳

縦 一

*「維新史107」のラベルあり。

二七―五 青窓紀聞六十四号拔萃 嘉永七甲寅十一月 大地震海嘯
ノ巻(大地震海嘯之巻)

写年未詳

水野正信(著)

縦 一

二七―七 明治二巳・同三午 御触留書抜

写年未詳

蓬左 B

縦 一

*「維新史91」のラベルあり。

二七―八 守国院大君御教導書(尾州家御規定 寛政)

江戸 写

縦 一

二七―九 (御規定 天保)

江戸 写

縦 一

二七―二〇 (藩債訴詔屢帝書)

明治 筆

縦 一

*多数の書簡類を綴じ込んだもの。

二七―二七 (藩庁職員録)

明治初年筆

横・小 一

二七―三 明治元辰年 江城請取頼末(江城請取頼末)

明治 写

徳川邸 庶務課(編)

縦 一

旧蓬左文庫所蔵史料目録(上)

番号表題

刊写年

著者(作成者)

蔵書印

形態数量

*「維新史73」のラベルあり。

二一五 (慶応四年 献金・窮民御撫育・御借財等)

写年未詳

縦 一

二一六 (類聚拔萃)

明治 写

縦 六

*第一冊の表紙見返しに「旧日記所本乙 類聚拔萃 六冊 第六十六番」と書かれた貼紙あり。「維新史138」のラベルあり。

第一冊 慶応四年辰閏四月 御先鋒御中軍御用留 書記方

第二冊 慶応四辰六月 御先鋒御中軍御用留

第三冊 慶応四辰八月 御先鋒御中軍御用留

第四冊 慶応四辰九月ヨリ 御先鋒御中軍御用留

第五冊 慶応四辰十一月 御先鋒御中軍御用留 書記方

第六冊 桑地取締 附信地取締

二一七 三世紀事略

明治 写

縦 八

*「三世紀事略」七冊と「三世紀事略訂正案」一冊からなる。後者は前者に付された付箋箇所について大津直行・中村修・吉田知行が協議した際の記録。前者には「維新史134」、後者には「維新史119」のラベルあり。

第一冊 文公紀事略一(文政七〜安政四年)

第二冊 文公紀事略二(安政五〜元治元年四月)

第三冊 文公紀事略三(元治元年七月〜慶応二年)

第四冊 文公紀事略四(慶応三〜明治一六年)

第五冊 顕樹公紀事略・靖公紀事略(安政五〜明治四年)

第六冊 紀事略附録上(楠社造立建議・二条城受取ほか)

第七冊 紀事略附録下(東海道出兵 附江戸城受取・奥州進撃ほか)

第八冊 三世紀事略訂正案

二一八

調達金差上切願人江御談・惣御借財大法積・慶応四年 御軍費献金員并姓名及歩合(調達金・御借財・軍費)

明治 写

縦 一

*「維新史106」のラベルあり。

二一九

嘉永元申年十二月 有志輩 米札停止ノ際歎願一卷(米 札停止之際歎願一卷)

写年未詳

縦 一

*「維新史105」のラベルあり。

二二〇

武家必覧 続泰平年表(続太平年表)(嘉永五年序)

江戸末期写

縦 三

竹舎主人(編)
四屏堂(補)

日記所

二二一

系譜(尾張徳川家)

明治 写

縦 一

二七―八 事蹟書(明治元〜明治六年)

明治 写

第六大区七小区東京府貫族
華族 徳川從三位義宜

縦 五

*「維新史139」のラベルあり。

二七―六 元治甲子秋至乙丑春 御宿陣御玄関帳 小十人組西村六

写年未詳

西村六右衛門(著)

縦 一

右衛門手記(御宿陣御玄関帳 元治甲子秋至乙丑春)

二七―五 金鍔紀聞 惟尾美代葵松葉(絵入扶桑新報附録)

明治一九年刊(活版)

縦・小 一

二七―四 勤王誘引

明治 写

蓬左 A

縦 一

*「維新史98」のラベルあり。

二七―三 「おもひ出くさ」(明治一八年序)

大正二年写

蓬左 B

縦 一

*野邨智則による写。

二七―二 御事蹟調ニ入用御書物目録(御事蹟調入用書目)

明治 写

縦 一

二六―一 (蓬州旧勝録)(安永八年自序)

江戸 写

蛙面坊茶町(著) 蓬左 A

縦 二三

第一冊 卷之一(尾張国・本州土産大宗ほか)

第三冊 卷之三(町中・神社仏閣の部)

第五冊 卷之五(町中・神社仏閣の部)

第七冊 卷之七(熱田地ノ部)

第九冊 卷之九(愛知郡継キ)

第十一冊 卷之十一(春日井郡継キ)

第十三冊 卷之十三(中島郡ノ部)

第十五冊 卷之十四下(海東郡統)

第十七冊 卷之十六(羽栗郡・海西郡の部)

第十九冊 卷之十八(知多郡継キ東浦)

第二〇冊 卷之十九(濃州岐阜・同芋尾・同高須・三州寺部・江州蒲生郡・摂州御領分)

第二二冊 卷之廿(濃州御領分)

第三三冊 卷之廿一(木曾路ノ分)

番 号 表 題

刊 写 年

著 者 (作 成 者)

蔵 書 印

形 態

数 量

第三冊 卷之廿二(雜分)

二六―三 (国秘録)

江戸末期写

奥村徳義(編)

蓬左 A

縦

六三

第一冊 巡見御用留 乾(御国巡見 乾)(天保八、九年)

第二冊 巡見御用留 坤(御国巡見 坤)(天保九年)

第三冊 御当日之記書拔(文恭院様市ヶ谷御成之記)(天保三年)

第四冊 (御右筆所秘記)

第五冊 (御葬送記)

第六冊 御側御秘書

第七冊 紀州様御下向鳴海御泊ニ付出駅之記(紀公御下列衆出駅)(天保一四年)

第八冊 尾張御国許名物御道具附(尾府御蔵御名器)

第九冊 文政三辰 御参府御供列諸事留 附公義御目見之一件共(御参府御供列諸事留)(大寄合席大御番頭格 中西主税著)

第一〇冊 嘉永三年戊七月 御老中松平和泉守殿上京熱田止宿ニ付為所用出駅留(御老中江御家老方御使)(御年寄席 大道寺玄蕃著)

第一一冊 文化二丑より同四卯迄 木曾川漁獵之儀ニ付坪内領之者共及公訴候一件写(木曾川通漁獵之件)

第一二冊 日光御予参聞書上之卷

第一三冊 日光御予参聞書中之卷

第一四冊 日光御予参聞書下之卷

第一五冊 御道中御目付方手扣 乾(御旅中御目付方手扣 乾)(天明、寛政)

第一六冊 御道中御目付方手扣 坤(御旅中御目付方手扣 坤)(天明、寛政)

第一七冊 尾州・江戸覚書(御用部屋行事上)

第一八冊 尾州御在・御留守之節覚書(御用部屋行事中)

第一九冊 江府御在・御留守之節覚書(御用部屋行事下)

第二〇冊 御天守御修復留 五冊之内一(御天守御修復上)

第二一冊 御天守御修復留 五冊之内二、三、四、五(御天守御修復中)

第二二冊 御天守御修復留 三冊之内三(御天守御修復下)

- 第三三冊 御女中向御定書写 尾州御広敷御役附大抵 松の葉日記 風の記(御広敷之大抵・松の葉日記・風の記)
- 第二四冊 上使一条大道寺家之留記極秘之略写(上使 鳴海御馳走并御迎出駅)(文化・天保)
- 第二五冊 軍役御定 海防之御備・大御番頭出張目録・寛政異国襲来之御備・京大坂辺御指出軍令(軍役御定一)
- 第二六冊 軍役御定 寛政御軍役定并弘化丙午尾藩御家老衆軍列大体(軍役御定二)
- 第二七冊 軍役御定之内 弘化丙午騷話(軍役御定三)
- 第二八冊 軍役御定 海防御備(軍役御定四)
- 第二九冊 御統帳(敬公・正公・誠公・立公・達公・曜公・逞公・戴公)
- 第三〇冊 御統帳二(明公上)
- 第三一冊 御統帳三(明公下)
- 第三二冊 御統帳四(順公・僖公)
- 第三三冊 御統帳五(懿公・欽公・御前代・御当代)
- 第三四冊 御統帳六(四谷・大津・川田窪)
- 第三五冊 文政二卯年ヨリ御本丸初御巡覽留(御巡覽留一)(文政二〜天保六年)
- 第三六冊 御巡覽留二(天保一〇〜一四年)
- 第三七冊 御巡覽留三(嘉永四年)
- 第三八冊 御巡城旧蹤略一(御巡覽留統編一)
- 第三九冊 御巡覽留統編二
- 第三九冊 御巡城旧蹤略六(御巡覽留統編三)
- 第四一冊 天和三亥 御武具之帳(御本丸記事二)
- 第四二冊 元禄十丑 御具足并御陣道具帳(御本丸記事二)
- 第四三冊 元禄 御天守方角并諸色之覚(御本丸記事三)
- 第四四冊 正徳五末 尾城御本丸異変一条(御本丸記事四)
- 第四五冊 御幕役所秘録 西鏡御門旧記(御本丸記事五)
- 第四六冊 寛延 御具足多門御道具調帳(御本丸記事六)
- 第四七冊 安永六西 御鎗帳(御本丸記事七)

番号表題

刊写年

著者(作成者)

蔵書印

形態

数量

- 第四八冊 安永六西 御弓矢両多門調帳(御本丸記事八)
- 第四九冊 御本丸御殿之画評 諸番所御備具 諸制札 諸役所渡鉄炮 御領中人馬数 天保御具足惣数覚(御本丸記事九)
- 第五〇冊 文化十年西從五月至六月 上使御札使留(上使御札使 乾 文化度)(御城代 中条多膳著)
- 第五一冊 文政六年未四月 江戸御使御用留(上使御札使 坤 文政度)(御城代 中条多膳著)
- 第五二冊 御小納戸役所文格(御小納戸文格)
- 第五三冊 国城経宮図記
- 第五四冊 五十人衆御関札御用勤道中手扣之写(御道中御関札)
- 第五五冊 文化八年未五月廿七日 上使之節熱田出駅留(上使迎宮出駅)
- 第五六冊 文化元甲子七月 聖聡院様御埋葬覚書 聖聡院様御送葬覚書(御簾中様御埋葬)(野村如圭著)
- 第五七冊 御道中御行列 御国表御行列(御道中御行列)
- 第五八冊 御使一条 御城代衆(御城代衆御使)
- 第五九冊 町奉行之律(町奉行之律 名古屋町附)
- 第六〇冊 (文化御条目)
- 第六一冊 享保七寅年御仕置改帳 御當時御仕置之覚(御仕置定)
- 第六二冊 (御天守鯨之金数積 野崎家旧記 万石以下衆御加判成文格 東御門二階入記 御目付方判鑑 和宮御下向之事記)
- 第六三冊 文政八年乙酉大寄合之節 女御御入内ニ付御使相勤候留(女御入内御使之記)(大道寺玄蕃著)

二六〇七 (御年譜)(徳川家康年譜)

江戸 写

蓬左 A

縦

五

第一冊 天文一一〇天正四年

第二冊 天正五〇天正二年

第三冊 天正一三〇慶長四年

第四冊 慶長五〇慶長一四年

第五冊 慶長一五〇元和三年

二六一〇 (御年譜附尾)

江戸 写

張府 B

縦

三

第一冊 卷一〇卷七(天正三年)

第二冊 卷八〇卷十六(天正四〇慶長五年九月)

第三冊 卷十七〇卷廿五(慶長五年一〇月〇元和三年)

六一二 (源敬様御代 御年譜草稿)

江戸 写

邸中 縦 一

六一三 (国記叢)(文政四年序・卷之四欠)

江戸後期写

蓬左A・尾張神 縦 二七
祇局

第一冊 首卷 総目

第三冊 卷之二 邦内 神祇(本国神名帳集説)

第五冊 卷之五 邦内 神祇(熱田遷宮記)

第七冊 卷之七 邦内 人物(並合記・信濃宮伝ほか)

第九冊 卷之九 邦内 歴任(旧事記・尾陽侯記ほか)

第十一冊 卷之十一 邦内 形勝(海邦名勝志一・二)

第十三冊 卷之十三 邦内 形勝(名勝地志・名所拾遺集ほか)

第十五冊 卷之十五 邦内 雜古(尾張雜記)

第十七冊 卷之十七 邦内 万性(安永本邦万姓司記)

第十九冊 卷之十九 邦内 犬邑(犬山里語記六・十・拾遺)

第二十一冊 卷之二十一 邦内 紀州(紀路草下)

第二十三冊 卷之二十三 邦内 美州 歴任・古城(美濃国記)

第二十五冊 卷之二十五 邦内 遠江 奥州松島・塩金図(遠州古蹟鏡ほか)

第二十七冊 卷之二十七 邦内 後編三(御行幸御列書・中宮御所御行啓御列書ほか)

六一三 尾陽雜記

江戸 写

蓬左A・尾府B 縦 一〇

六一五 尾張名所図会(前編・後編)

天保一五・明治
一三年刊

岡田啓・野口道直(編) 徳図印(後編) 縦 一三

*前編七冊と後編六冊からなり、前編は菱屋久兵衛ほか、後編は愛知県により版行された。

第一冊 前編卷之一(地理疆界・国号濫觴ほか)

第三冊 前編卷之三(熱田ほか)

第五冊 前編卷之五(愛智郡)

第七冊 前編卷之七(海東郡・海西郡)

第二冊 前編卷之二(枇杷島ほか)

第四冊 前編卷之四(八剱神社ほか)

第六冊 前編卷之六(知多郡)

第八冊 後編卷之一(中島郡上)

番 号 表 題

刊 写 年

著 者 (作 成 者)

蔵 書 印

形 態 数 量

- 第九冊 後編卷之二(中島郡中)
第一冊 後編卷之四(春日井郡上)
第三冊 後編卷之六(丹羽郡)

- 第一〇冊 後編卷之三(中島郡下)
第二冊 後編卷之五(春日井郡下)

二六―六 稽徳編(文化四年序)

江 戸 末 期 写

深田正韶(著)

縦 三二

- 第一冊 序目
第三冊 卷之二(東照宮第二)
第五冊 卷之四(東照宮第四)
第七冊 卷之六(東照宮第六)
第九冊 卷之八(東照宮第八)
第一一冊 卷之十(台徳公)
第一三冊 卷之十二(大猷公第二)
第一五冊 卷之十四(有徳公第二)
第一七冊 卷之十六(南龍公)
第一九冊 卷之十八(西山公第二)
第二一冊 卷之二十(会津侯第一)
第二三冊 卷之二十二(備前侯)
第二五冊 卷之二十四(肥後侯第二)
第二七冊 卷之二十六(肥後侯第四)
第二九冊 卷之二十八(肥後侯第六)
第三一冊 卷之三十(米沢侯第二)

- 第二冊 卷之一(東照宮第一)
第四冊 卷之三(東照宮第三)
第六冊 卷之五(東照宮第五)
第八冊 卷之七(東照宮第七)
第一〇冊 卷之九(東照宮第九)
第一二冊 卷之十一(大猷公第一)
第一四冊 卷之十三(有徳公第一)
第一六冊 卷之十五(敬公)
第一八冊 卷之十七(西山公第一)
第二〇冊 卷之十九(西山公第三)
第二二冊 卷之二十一(会津侯第二)
第二四冊 卷之二十三(肥後侯第一)
第二六冊 卷之二十五(肥後侯第三)
第二八冊 卷之二十七(肥後侯第五)
第三〇冊 卷之二十九(米沢侯第一)

二六―三 参河後風土記(慶長一五年自序)

江 戸 末 期 写

平岩親吉(編)

張 府 B

縦 一五

*第二一七・一〇一五冊の外題は「三河後風土記」。

第一冊 序・卷第一〜卷第三

第二冊 卷第四〜卷第六

第三冊 卷第七～卷第九

第五冊 卷第十三～卷第十五

第七冊 卷第十九～卷第二十一

第九冊 卷第二十五～卷第二十七

第十一冊 卷第三十一～卷第三十三

第十三冊 卷第三十七～卷第三十九

第十五冊 卷第四十三～卷第四十五

第四冊 卷第十～卷第十二

第六冊 卷第十六～卷第十八

第八冊 卷第二十二～卷第二十四

第二〇冊 卷第二十八～卷第三十

第二二冊 卷第三十四～卷第三十六

第二四冊 卷第四十～卷第四十二

元一 一 盜賊御仕置御定〔盜賊御仕置定〕

江戸中期写

元一 二 八年二月 聖上瓦町御賜邸へ臨幸之記〔御臨幸記事〕

明治 写

蓬左 B

元一 三 〔就産場一件書類〕〔明治一五～一七年〕

明治 写

縦 三

*上・中・下の三冊からなり、上・下には書簡が多く綴られている。「維新史120」のラベルあり。

元一 四 〔職俸録〕〔明治三年〕

明治 写

横半 三

元一 五 〔家中分限帳〕

江戸末期写

横半 三

*第一冊の表紙見返しに「旧日記所本乙 分限帳 三冊 第九十九番」と記された貼紙あり。

元一 六 〔家中拝借金元帳〕

江戸末期写

横半 五

元一 九 〔美濃国村別石高帳〕〔正保年間〕

江戸 写

蓬左 A

縦 一

元一 三 〔文政年 分限帳〕〔尾張藩〕

江戸後期写

縦 一

元一 三 木曾路巡覧記

宝暦五年刊

横・小 一

蘆橘堂適志〔編〕
〔明和六年後印〕
河内屋茂八ほか〔版〕

元一 七 〔御代々様御初 御官位々記口宣年月日〕

寛政四年筆

日記所

縦 一

元一 九 〔寛政十一年 触留帳〕〔尾張家中〕

寛政十一年写

横 一

旧蓬左文庫所蔵史料目録〔上〕

番号表題

刊写年

著者(作成者)

蔵書印

形態数量

二一〇 尾陽御代々記

江戸後期写

横 一

二一三 酒之御法度帳

寛文一〇年筆

縦 一

二一七 (夏の日国に帰るの記・木曾路の御路の記・日光山陪従私記其他)

写年未詳

縦 一

*表題の書目のほか「やよひ末のなゝ日より日記」「こゝろにうかふまゝ」「かしこみの言葉」を収録。

二一三 (知多郡村高帳)

明治 写

縦 一

*昭和十一年一月六日付「蓬左文庫蔵本」の貼紙あり。

二一四 温故雜祖(寛延三年名古屋市中町人由緒御尋ニ付町中書上)

昭和十一年写

縦 二

二一七 (飛驒国地価等改正)(明治五年)

明治 写

縦 一

二一八 古譚

江戸中期写

縦 一

二一四 碑叢(尾張文人等墓碑銘書上帳)

昭和十二年写

縦 五

*名古屋市立図書館本より大脇鍊三郎が尾張藩関係の事項を抜粋して書写したもの。

二一四 塵点録

江戸 写

縦 七三

*このほかに番外としてペン書きの「塵点記目次」を付す。

第一冊 卷一 徳川世記(清和源氏徳川家ノ系譜ほか)

第二冊 卷二 御系譜(徳川世記略ほか)

第三冊 卷三 淡海(淡海第一ノ第八)

第四冊 卷四 元寛日記抜粹(元和元ノ寛永十一年七月)

第五冊 卷五 元寛日記抜粹(寛永十一年閏七月ノ寛永二〇年)

第六冊 卷六 江戸(柳営年中行事略記)

第七冊 卷七 江戸(神君御代禿之衆ほか)

第八冊 卷八 江戸・京(関白宣下ほか)

第九冊 卷九 江戸・京(文昭院様御葬送御行列ほか)

第一〇冊 卷十 江戸(町奉行之律ほか)

第十一冊 卷十一 尾州(尾州御宮)

第十二冊 卷十二 尾州(御城代組小頭・御具足奉行・御天守鍵奉行ほか)

- | | | | | | |
|------|------|----------------------------------|------|------|-----------------------|
| 第一三冊 | 卷十三 | 尾州(御入興之次第ほか) | 第一四冊 | 卷十四 | 尾州(源敬公并高原院殿御香奠) |
| 第一五冊 | 卷十五 | 尾州(旧聞雜記ほか) | 第一六冊 | 卷十六 | 尾州(平岩系図・平岩主計頭親吉家中帳) |
| 第一七冊 | 卷十七 | 尾州(貞松院殿御系図ほか) | | | |
| 第一八冊 | 卷十八 | 尾州(宝永六丑十一月犬山御成記 附り成瀬隼人正墓碑銘ほか) | | | |
| 第一九冊 | 卷十九 | 尾州(尾州旧話略ほか) | 第二〇冊 | 卷二十 | 尾州(尾州・濃州高附并所々池々地方覚ほか) |
| 第二一冊 | 卷二十一 | 神祇(本国神名帳集説ほか) | 第二二冊 | 卷二十二 | 神祇(偽年号ほか) |
| 第二三冊 | 卷二十三 | 神祇(尾張国熱田太神縁記ほか) | 第二四冊 | 卷二十四 | 神祇(無題) |
| 第二五冊 | 卷二十五 | 浮屠 愛知郡 | 第二六冊 | 卷二十六 | 浮屠 春日井郡 |
| 第二七冊 | 卷二十七 | 浮屠 丹羽・羽東・海西 | 第二八冊 | 卷二十八 | 浮屠 海東郡 |
| 第二九冊 | 卷二十九 | 浮屠 中島郡 | 第三〇冊 | 卷三十 | 浮屠 知多郡 |
| 第三一冊 | 卷三十一 | 寺塔(天台・真言・禪) | | | |
| 第三二冊 | 卷三十二 | 寺塔(浄土・時宗・日蓮・西本願寺・東本願寺・高田・仏光寺・山伏) | 第三四冊 | 卷三十四 | 神仏(尾張大根ほか) |
| 第三三冊 | 卷三十三 | 浮屠(釈・道家・陰陽師・寺塔・堂院・僧・両部習合) | 第三六冊 | 卷三十六 | 人伝(頼朝公御代分限帳并壱万石以上) |
| 第三五冊 | 卷三十五 | 人伝(名勝志・和州伝・鎌倉実記・忠義伝拔書) | 第三八冊 | 卷三十八 | 人伝(無題) |
| 第三七冊 | 卷三十七 | 人伝(殉死記) | 第四〇冊 | 卷四十 | 人伝(小笠原佐渡守夢物語ほか) |
| 第三九冊 | 卷三十九 | 人伝(無題) | 第四二冊 | 卷四十二 | 書札 |
| 第四一冊 | 卷四十一 | 書札 | 第四四冊 | 卷四十四 | 文記 |
| 第四三冊 | 卷四十三 | 文記 | | | |
| 第四五冊 | 卷四十五 | 儒書 | | | |
| 第四六冊 | 卷四十六 | 羅山文集(羅山先生集附録卷第四・卷第五・卷第一・卷第二) | 第四八冊 | 卷四十八 | 詩文 |
| 第四七冊 | 卷四十七 | 詩文・和歌 | 第五〇冊 | 卷五十 | 詩文 |
| 第四九冊 | 卷四十九 | 詩文 | 第五二冊 | 卷五十二 | 歌・源氏物語 |
| 第五一冊 | 卷五十一 | 歌 | 第五四冊 | 卷五十四 | 拔粹(武家文盲或問ほか) |
| 第五三冊 | 卷五十三 | 拔粹(節会仮名文字グサリほか) | 第五六冊 | 卷五十六 | 拔粹(羅山文集ほか) |
| 第五五冊 | 卷五十五 | 拔粹(本朝文粹ほか) | | | |

番 号 表 題

刊 写 年

著 者 (作 成 者)

蔵 書 印

形 態

数 量

第五七冊 卷五十七 抜粹(本朝三國志ほか)

第五九冊 卷五十九 抜粹(引書不詳)

第六一冊 卷六十一 抜粹(案書ほか)

第六三冊 卷六十三 雑(寺院古事并社事ほか)

第六五冊 卷六十五 雑会門(題聴泉子蘭亭記詩并引)

第六七冊 卷六十六下 和漢古今諸説(弁朱子諡封ほか)

第六九冊 卷六十八 古今雑事

第七一冊 卷七十 飲食門

第七三冊 卷七十二 草魚天(草木・羽毛鱗介・天文)

元一四三 [早引米相場]

文化一一年刊

月光亭墨僊(編)

蓬左 A

横・小

一

*昭和十二年二月四日付「蓬左文庫蔵本」の貼紙あり。

元一四四 [尾州御普請所諸色直段帳]

江戸中期写

版元未詳

蓬左 A

横・小

一

*昭和十二年二月四日付「蓬左文庫蔵本」の貼紙あり。

元一四四 甲斐国山梨・八代・巨摩三郡村高帳

宝暦六年刊

鷹野慧広(編) 版元未詳

蓬左 A

縦

一

*末尾に「都留郡内領」の村高(文政以降)を加筆する。昭和十二年二月四日付「蓬左文庫蔵本」の貼紙あり。

元一四四 (天保十一・二年間書)

天保一二年写

版元未詳

蓬左 A

縦

一

*昭和十三年一月一日付「蓬左文庫蔵本」の貼紙あり。

元一四四 (御普請所覚書)

江戸 写

版元未詳

蓬左 A

縦

一

*昭和十三年一月一日付「蓬左文庫蔵本」の貼紙あり。

元一四四 (御城下細見図)

大正六年写

版元未詳

蓬左 A

縦

一

*末尾に名古屋市堀詰町の関戸守彦所蔵本より謄写した旨の奥書あり。

元一四 〔尾張中将殿就逝去尾州江上使相勤候一件之留〕(安永二年)

写年未詳

仙石越前守(著)

蓬左A

縦

一

元一五 〔浪花講定宿帳〕

嘉永三年刊
(文久二年後印)

松屋甚四郎(編)
村上勘兵衛ほか(版)

蓬左A

横・小一

元一六 尾張隨筆

江戸写

蓬左A

縦

二三

第一冊 貞享戊辰隨筆六

第三冊 (軍役次第并人数・石高ほか雜記)

第五冊 元禄四年隨草

第七冊 雜記

第九冊 雜記

第一一冊 雜記

第一三冊 宝永元年雜記

第一五冊 貞享元年隨筆雜記

第一七冊 雜記

第一九冊 雜記

第二一冊 雜記

第二三冊 雜記

第二冊 宝永七年雜記

第四冊 正徳四年筆記

第六冊 雜録

第八冊 雜記

第一〇冊 正徳五乙未年・享保元乙未年(雜記)八

第一二冊 享保二丁酉年雜記九

第一四冊 正徳三年雜記

第一六冊 享保元丙申年雜記七

第一八冊 雜記

第二〇冊 雜記

第二二冊 享保十年雜記

蓬左A

縦

一

元一七 初学文宗(慶安三年)

江戸写

徳川義直(著)

蓬左A・尾陽

縦

一〇

第一冊 卷第一(宗廟・畿内)

第三冊 卷第三(畿内)

第五冊 卷第五(東海道)

第七冊 卷第七(山陰道・山陽道)

第九冊 卷第九(西海道)

第一〇冊 附図

第二冊 卷第二(畿内)

第四冊 卷第四(東海道)

第六冊 卷第六(東山道・北陸道)

第八冊 卷第八(南海道)

第一〇冊 附図

番 号 表 題

刊 写 年

著 者 (作 成 者)

蔵 書 印

形 態 数 量

四四

二九一 六 温知政要輔翼(享保一六年自序)

江 戸 写

中村平五(補翼)
深田慎斎(校訂)

蓬 左 A

縦 三

二九一 七 伊勢両宮差異弁(伊勢両宮差異弁古見幸混稿本)

寛保二年筆

吉見幸和(著)

蓬 左 A

縦 一

三〇一 二 (工夫画様 諸職人物画譜)(安政六年序)

安政七年刊

一需斎其春ほか(画)
版元未詳

蓬 左 A

縦・小 一

三〇一 三 (貨幣条例 新貨条例改正)

明治八年刊

大阪造幣寮(版)

蓬 左 A

縦 一

三〇一 七 金銀図録

文化七年刊

近藤守重(編)

蓬 左 A・張府 A

縦 七

第一冊 卷之一(正用品)

第三冊 卷之三(甲州品)

第五冊 卷之五(尚古品)

第七冊 附言

三〇一 三 (千代のかたみ)

明治三八年刊(活版)

蓬 左 A

縦 一

*徳川義宣没後三〇年祭に際しての献詠会の記録。

三〇一 元 扶老園詩集

明 治 写

金湯居士(著)

徳図記

縦 一

三〇一 二 〔掟覚書〕

江 戸 写

蓬 左 A

縦 一

三〇一 六 諸士略伝稿(諸士略伝)

昭和九年写

中山和清(著)

蓬 左 A

縦 一

*大尾に鈴木半右衛門より借り受け書写した旨の奥書あり。

三〇一 元 家法条目

明 治 写

蓬 左 A

縦 一

三〇一 五 御当家厳節録

江戸中期写

蓬 左 A

縦 六五

*昭和八年二月一日付「蓬左文庫蔵本」の貼紙あり。

第一冊 惣目録

第二冊 卷之一(御高札類之事ほか)

- 第三冊 卷之二(道中筋廻状之事ほか)
- 第五冊 卷之四(東照宮御鎮座所々之事ほか)
- 第七冊 卷之六(御黒書院・御白書院御太刀目録披露置所之事ほか)
- 第九冊 卷之八(海上之流物・沈物取揚ヶ候御定ほか)
- 第一冊 卷之十(城御取渡之次第ほか)
- 第一三冊 卷之十二(御用達町人燈灯通箱御紋停止之事ほか)
- 第一五冊 卷之十四(切支丹類族帳認様之事ほか)
- 第一七冊 卷之十六(闕所一件御条目ほか)
- 第一九冊 卷之十八(闕所入札窺書ほか)
- 第二冊 卷之二十(逐電者跡式之事ほか)
- 第三冊 卷之二十二(道中御定御条目ほか)
- 第二五冊 卷之二十四(入札金銀両品之事ほか)
- 第二七冊 卷之二十六(御勘定奉行并吟味役江御書付之事ほか)
- 第二九冊 卷之二十八(御金蔵江納方之事ほか)
- 第三一冊 卷之三十(願書停止御条目ほか)
- 第三三冊 卷之三十二(御鷹江下馬之御条目ほか)
- 第三五冊 卷之三十四(屋敷改并断御条目ほか)
- 第三七冊 卷之三十六(鳥之御条目ほか)
- 第三九冊 卷之三十八(闕所田畑御弘之事ほか)
- 第四一冊 卷之四十(称遠国奉行役人之事ほか)
- 第四三冊 卷之四十二(火災掟高札之事ほか)
- 第四五冊 卷之四十四(国々女手形出ル之事ほか)
- 第四七冊 卷之四十六(関所手形追加ほか)
- 第四九冊 卷之四十八(村方町場五人組御条目ほか)
- 第五一冊 卷之五十(三ヶ日御規式之事)
- 第四冊 卷之三(日光海道宿々并道法付ほか)
- 第六冊 卷之五(小普請金取立之事ほか)
- 第八冊 卷之七(大錢通用停止之事ほか)
- 第一〇冊 卷之九(質地并田畠売買札ほか)
- 第二冊 卷之十一(小荷駄馬口附不乗町口所々傍示杭ほか)
- 第一四冊 卷之十三(御林立木并地面御弘新田願ほか)
- 第一六冊 卷之十五(浦請証文之事ほか)
- 第一八冊 卷之十七(闕所入札定書ほか)
- 第二〇冊 卷之十九(神尾五兵衛・神尾外記上知窺書ほか)
- 第二冊 卷之二十一(検地ニ付窺書之事ほか)
- 第二四冊 卷之二十三(浦々添高札御条目ほか)
- 第二六冊 卷之二十五(御料所百姓江御制条)
- 第二八冊 卷之二十七(御物成納方之事ほか)
- 第三〇冊 卷之二十九(殿中席御定之次第ほか)
- 第三二冊 卷之三十一(御代替札式ほか)
- 第三四冊 卷之三十三(支配所鉄炮改帳之事)
- 第三六冊 卷之三十五(無尽金之儀ニ付御書付之事ほか)
- 第三八冊 卷之三十七(川船極印打替之事ほか)
- 第四〇冊 卷之三十九(検地御条目ほか)
- 第四二冊 卷之四十一(地震退席之事ほか)
- 第四四冊 卷之四十三(御仕置一件之事ほか)
- 第四六冊 卷之四十五(御関所所々鉄砲武器改之事ほか)
- 第四八冊 卷之四十七(土民仕置御条目ほか)
- 第五〇冊 卷之四十九(廻船一件ほか)
- 第五二冊 卷之五十一(御改正服忌令仰出之事ほか)

番号表題

刊写年

著者(作成者)

蔵書印

形態

数量

第五三冊 卷之五十二(御宮御名代御清之次第ほか)

第五四冊 卷之五十三(山王御祭祀御清之事ほか)

第五五冊 卷之五十四(指出帳)

第五六冊 卷之五十五(指出帳ほか)

第五七冊 卷之五十六(郷帳ほか)

第五八冊 卷之五十七(御勘定帳并札帳)

第五九冊 卷之五十八(金米荏大豆納札ほか)

第六〇冊 卷之五十九(卯年御成ヶ勘定目録ほか)

第六一冊 卷之六十(安房国・上総国高帳ほか)

第六二冊 卷之六十一(玖樋堤川除普請帳ほか)

第六三冊 卷之六十二(武蔵国多摩郡御料・私領高割樋川除堰帳)

第六四冊 卷之六十三(手代請証文ほか)

第六五冊 卷之六十四(手代印判書付之事ほか)

三〇一 安政年間 御家分限録

江戸末期写

蓬左 A

横半

一

三〇二 御家御役名録 慶応四丙寅五月改

昭和一四年写

蓬左 A

縦

一

*名古屋入船町の安藤次郎所蔵本より謄写した旨の奥書あり。

三〇三 弐 御日記所留番ヨリ撰津守様御附属・御領知奉行迄(分限録)

江戸末期写

蓬左 A

横半

一

三〇四 御使番格ヨリ大御番組迄(分限録)

江戸末期写

蓬左 A

横半

一

三〇五 大御番組ヨリ寄合組迄(分限録)

江戸末期写

蓬左 A

横半

一

三〇六 寄合組より小十人格迄(分限録)

江戸末期写

蓬左 A

横半

一

三〇七 御法号いろは寄

江戸後期写

蓬左 A

縦

一

三〇八 尾張分限帳

宝永五年頃写

蓬左 A・慶勝蔵

縦

一

三〇九 義直卿御聞書

江戸 写

蓬左 A

縦

一

三〇一〇 宮雛形(大工雛形卷之一)

享保二年刊

鈴木正豊(著)
須原屋茂兵衛(版)

蓬左 A

横

一

三〇一一 武家雛形〔新板武家雛形〕(大工雛形卷之二)

享保二年刊

本林常将(著)

蓬左 A

横

一

三〇一六 〔新板棚雛形〕〔大工雛形卷之三〕 享保二年刊 蓬左 A 横 一

三〇一七 数寄屋雛形〔新板数寄屋雛形〕〔大工雛形卷之三下〕 享保二年刊 蓬左 A 横 一

三〇一八 小坪規矩・同追加〔新板小坪規矩・同追加〕〔大工雛形卷之四・卷之五〕 享保二年刊 蓬左 A 横 二

三〇一九 匠家極秘伝 享保二年刊 蓬左 A 縦 二

三〇二〇 江都官論秘鑑〔江都官論秘鑑〕 江戸中期写 蓬左 A 縦 三

三〇二一 〔習斎先生治水考并治水条目〕 天保二年写 蓬左 A 縦 一

*中村蕃政「治水考」〔安永二年自序〕および「治水条目」〔安永三年自序〕に宮田敏「水害論」〔天保一年筆〕を付す。

三〇二二 新城記其外雜記〔新城記 附雜記〕 江戸中期写 蓬左 A 縦 一

*表紙見返しに「中井憲三氏寄贈」と書かれた貼紙あり。

三〇二三 余科御定 安政三年写 蓬左 A 縦 一

*落合伊正による写。表紙見返しに「中井憲三氏寄贈」と書かれた貼紙あり。

三〇二四 新城聞書記録 天保一年写 蓬左 A 縦 一

*大尾に「天保十一庚子二月於一条在番先写之 川出宗右衛門」と記されている。表紙見返しに「中井憲三氏寄贈」と書かれた貼紙あり。

三〇二五 源敬様御代私録牒〔寛政二年〕 昭和二年写 蓬左 A 縦 一

留木裁許人 佐兵衛↓中川彦三郎様

*愛知県史編纂係による謄写本。

三〇二六 脱籍 徳川家臣布告書 慶応四年写 蓬左 A 縦 一

三〇二七 編年録大全 昭和十五年写 縦 四

旧蓬左文庫所蔵史料目録（上）

番 号 表 題

刊 写 年

著 者 (作 成 者)

蔵 書 印

形 態

数 量

* 第四冊の末尾に熱田旗屋町の加藤秀一所蔵本より謄写した旨の奥書あり。

第一冊 初編一・二(慶長五〇寛永二年)

第三冊 二編一〇三・追加(元禄一〇正徳三年・元禄五〇延享元年)

三〇一四 (名兄屋日記)

江戸中期写

本居大平(編)

蓬左 A

縦

一

* 別題「藤のとも花」。

三〇一五 徳川家禮典録関係書類(明治二二年)

昭和一六年写

蓬左 A

縦

一

大尾に池田侯爵家本より謄写した旨の奥書あり。

三〇一五 (文久元年訂分限帳(御数寄屋坊主組頭以下))

江戸末期写

蓬左 A

横半

一

* 嘉永元年以前に作成されたものに随時補訂を加える形態をとる。

三〇一五

御老中方江廻勤井上々様江御言伝相勤候節之覚・着当日市買出殿之節覚(寛書(老中へ廻勤・市買出殿))(明和・安永)

江戸中期写

蓬左 A

縦

一

三〇一五 忘形集

文化一〇年刊

山村良由・佐々木方壺(著)清音楼(版)

蓬左 A

縦

一

三〇一五 (丙子三日 清音亭集)

文化一三年刊

清音亭主人 山屯良由(序)

蓬左 A

折本

一

三〇一五 義親公幼稚御記録

昭和一二年写

糟谷季之助(編)

蓬左 A

縦

一

* 中表紙裏に「糟谷季之助君 春嶽全集取調中ニ書抜き贈ラル」と記されている。

三〇一五 章善公異格(文政年間成稿)

昭和一三年写

蓬左 A

縦

一

三〇一五 尾張国非人六の伝

写年未詳

縦

一

三〇一五 (御本丸諸役制規)(御本丸御番所記録)

江戸後期写

横

一

三〇一五 享保拾九寅年より 仲ま中変事之品留帳

江戸後期写

縦

一

三〇一七 瑞龍院様御撰述御軍用書・御天守間数書(瑞公御軍用書・御天守間数書 合) 文政二年写 蓬左 A 縦 一

*大尾に「文政二年卯五月端午以岡本氏本於御広敷写之」と記されている。

三〇一七 (尾藩役人頭書)(願書・達書取計記録 文化く天保) 江戸後期写 蓬左 A 横半 一

三〇一七 (藩中規式)(触達取計方其外諸事書留帳 文政く天保) 江戸後期写 蓬左 A 縦 一

三〇一七 渡辺家士勤書(文化一〇年成稿) 明治四四年写 蓬左 A 縦 一

*大尾に三河国西加茂郡高橋村大字寺部の渡辺半蔵所蔵本から名古屋市史編纂係が抄録した旨の奥書あり。

三〇一八 諸御触諸願達留記(安政四年至文久元年 諸御触諸願達留記(尾張藩鉄炮鑄職留)) 昭和一七年写 縦 一

*中表紙に「名古屋図書館本」というペン書きあり。

三〇一八 蕉窓余録 全(嘉永三年起筆) 大正八年写 細野忠陳(著) 蓬左 A 縦 一

*大尾に名古屋市史編纂係が阪本欽之助所蔵本より謄写した旨の奥書あり。

三〇一八 平岩家分限証文書札集 明治四四年写 蓬左 A 縦 一

*大尾に名古屋市東区西二葉町の刑部玄雄所蔵本より名古屋市史編纂係が謄写した旨の奥書あり。

三〇一八 寛政三年亥二月 寺社吟味書出留(尾張国知多郡寺社吟味記録) 江戸後期写 蓬左 A 縦 一

三〇一八 寛政十二年申六月 篠島社人辻三太夫勢州ニ而願之一件(尾張篠島神社勢州願之一件) 寛政一二年筆 辻三太輔久好(筆) 蓬左 A 縦 一

三〇一八 毛呂具波舟乃記(尾張国海東郡諸桑村 毛呂具波舟乃記) 天保九年写 鈴木規定(著) 蓬左 A 縦 一

三〇一九 瑞龍院殿源正公御行状略(享保六年成稿) 昭和一〇年写 河村時秀(著) 蓬左 A 縦 一

*大尾に名古屋市図書館所蔵本を謄写した旨の奥書あり。昭和二年九月一八日付「蓬左文庫蔵本」の貼紙あり。

旧蓬左文庫所蔵史料目録(上)

番 号 表 題

刊 写 年

著 者 (作 成 者)

蔵 書 印

形 態 数 量

三〇一四 河水問答(明和五年跋)

大正一二年写

河村殷根〔編〕

蓬左 A

縦 三

* 河村秀根と速水房常の問答を河村の子殷根が編述したもの。大尾に名古屋市中区下堅杉町の河村秀孝所蔵本を謄写した旨の奥書あり。

三〇一五 〔尾藩 諸家系譜〕

江戸中期写

蓬左 A

縦 一

* 石河・渡辺・志水・寺尾・中条・阿部・生駒・鈴木・織田・玉置・毛利・樋口・阿野・堀川の各家を収録する。

三〇一六 竹腰家雑記

江戸前期写

蓬左 A

縦 一

三〇一七 〔竹腰正晴伝〕

江戸 写

蓬左 A

縦 一

三〇一八 〔尾州家 留書〕(天保一一―一四年)

江戸後期写

蓬左 A

縦 四

三〇一九 御外戚伝

江戸中期写

蓬左 A

縦 一

* 〔御外戚伝〕「竹腰庶流・奥田庶流・野々村家譜」「諸家系譜抜粹 一柳之系譜」「大久保系」を収録する。

三〇二〇 〔竹腰系譜〕

江戸 写

蓬左 A

縦 一

* 四種類の系譜書を合綴したもの。

三〇二一 〔国秘録 御普請奉行石場役往還方手扣〕

江戸後期写

奥村徳義〔編〕

蓬左 B

縦 一

三〇二二 古触状留抜書〔国秘録 古触留抜書〕

天保一四年写

奥村徳義〔編〕

蓬左 B

縦 一

* 〔松壽居図書印〕 印あり。

三〇二三 御役高調帳〔国秘録 御役高年限調〕

弘化五年写

奥村徳義〔編〕

蓬左 B

縦 一

三〇二四 天和二壬戌歳 御家中分限帳写〔国秘録 天和二年分限帳〕

安政五年写

奥村徳義〔編〕

蓬左 B

縦 一

三〇二五 大御番与頭加役条手扣之写 宝曆九卯年之改卜有之〔国秘録 大御番与頭加役留〕

嘉永七年写

奥村徳義〔編〕

蓬左 B

縦 一

三〇二六 御城代衆日帳〔国秘録 尹斤記〕

弘化四〇五年写

奥村徳義〔編〕

蓬左 B

縦 二

*第一冊には中条康永「追身規範」(文化二年自序)、第二冊には大道寺家御用番中による「諸届」「御鉄炮方諸事」「御職人由緒」(いずれも文化八年)を収める。

三一三 文格(国秘録 御勘定奉行元方古文格) 弘化三年写 奥村徳義(編) 蓬左 B 縦 一

三一四 (国秘録 安政御改革惣帳) 安政三年写 奥村徳義(編) 蓬左 B 縦 六

第一冊 惣帳一・二合冊
第二冊 惣帳三

第三冊 惣帳四

第四冊 惣帳五 尾城三之丸良隅御屋形御住居聖物院様・俊恭院様御附衆之員 御本丸御女中向キ之禄

第五冊 安政二卯御改革御役高帳 第六冊 御家中御徒格以下御役順 安政三辰九月訂

三一七 (国秘録 役寄帳書抜) 安政五年写 奥村徳義(編) 蓬左 B 縦 一

三一八 紺屋頭小坂井新左衛門家伝仕来所之御朱印之写一通・由緒書(国秘録 小坂井新左衛門記) 文久二年写 奥村得義(編) 蓬左 B 縦 一

三一三 (国秘録 大道寺家秘録) 弘化三年写 奥村徳義(編) 蓬左 B 縦 一

三一三 諸御定書所々制札雜記(国秘録 諸御勘定書 附制札記) 安政四年写 奥村徳義(編) 蓬左 B 縦 一

三一三 (国秘録 難波之塵) 文久元年写 奥村得義(編) 蓬左 B 縦 六

第一冊 拔萃之一(安永二年二月〜四月)
第二冊 拔萃之二(安永二年四月〜八月)

第三冊 拔萃之三(安永二年七月〜一〇月・安永三年正月〜二月)
第四冊 拔萃第四(安永四年正月〜閏二月)

第五冊 拔萃第五(安永五年正月〜八月)
第六冊 拔萃第六(安永一・安永四・安永五年)

三一四 分限帳 明治初年写 蓬左 B 横 二

*通称「維新当初分限帳」。一説には「国秘録」の一環をなすものといわれるが根拠は不明。奥村徳義旧蔵書のうち。

三一五 御船手一条(国秘録 御船手) 嘉永元・同五年写 奥村徳義(編) 蓬左 B 縦 一

三一六 伊藤直之進奉諫書(国秘録 伊藤氏上書) 嘉永五年写 奥村徳義(編) 蓬左 B 縦 五

三一三 尾藩制口記 嘉永七年写 蓬左 B 縦 一

番号表題

刊写年

著者(作成者)

蔵書印

形態

数量

*奥村徳義旧蔵書のうち。

三一 四 尾州旧話略

天保七年写

津田政之(著)

蓬左 B

縦

一

*別題「尾張旧話録」。奥村徳義による写。

三一 五 古譚(竹腰家古老伝記)(享保一七年成立)

天保八年写

稲葉昌徳(著)

蓬左 B

縦

一

*奥村徳義による写。「松濤居図書印」印あり。

三一 六 名古屋錦(那護屋錦)

江戸後期写

蓬左 B

縦

一

*別題「貴賤夢の跡」。奥村徳義旧蔵書のうち。

三一 四 錦城明細秘録

安政五年写

蓬左 B

縦

一

*奥村徳義による写。

三一 四 関東百人組人数留帳(渡辺家御預百人組之留記)(文化八年成立)

安政五年写

平野藤八(著)

蓬左 B

縦

一

*奥村徳義旧蔵書のうち。

三一 四 正親覚書抜

天保七年写

成瀬正親(著)

蓬左 B

縦

一

*奥村徳義による写。「松濤居図書印」印あり。

三一 四 犬山御成記(泰心公犬山城御成之記)(宝永六年)

江戸後期写

蓬左 B

縦

一

*宝永六年十一月一日の御成に関するもので、外題にある「泰心院」は誤記と考えられる。奥村徳義旧蔵書のうち。

三一 五 公裁秘鑑(宝暦四年成立)

文政元(二年)写

蓬左 B

縦

三

*文政二年写の「公裁秘鑑全」と文政元年写の「公裁秘鑑」上下の二種類からなる。奥村徳義による写。

三一 六 御廓内外住居歴代屋敷附(御郭内外歴代屋敷附)

嘉永四年写

蓬左 B

縦

一

*奥村徳義による写。

水野正信(編)
奥村徳義(補編)

三一 壹 正事記(寛文五年成立)

嘉永三年写

津田藤兵衛(編)

蓬左 B

縦 五

* 第一冊は、第二、第五冊とは別系統の小型本。後者四冊は嘉永三年の奥村徳義による写。

三一 貳 (御仕置留書拔)

文政五年写

蓬左 B

縦 三

* 伊藤徴吉による写。奥村徳義旧蔵書のうち。

三一 参 蓬左年代詳聞録

江戸 写

蓬左 B

縦 五

* 奥村徳義旧蔵書のうち。

第一冊 御初代一

第二冊 御初代二

第三冊 御初代三 (御二代欠)

第四冊 御三代

第五冊 御四代・御五代

三一 四 松濤棹筆

奥村徳義(著)

蓬左 B

縦 八五

* 奥村徳義が自己の見聞・経験や伝聞を書き留めたり、自ら採訪した文書・記録類や他者の随筆などからの抜書を記したもの。第四一冊から第六九冊までは『海港新制録』と題した徳義の編述書である。なお、本書については、名古屋市蓬左文庫編『名古屋叢書三編第九巻・松濤棹筆(抄)上』(名古屋市教育委員会、一九八四年)所収の小島廣次「解説」を参照されたい。

三一 五 (享保尾事)

江戸後期写

水野正信(編)

縦 二

* 水野正信旧蔵書のうち。「水野正信図書之記」印・「醉讀堂」印あり。

三一 六 (御領分いろは分村名附)

安政四年写

近藤八三郎(編)

横半 一

* 水野氏による写。

三一 七 (文化 尾張評判)(文化五年)

江戸後期写

可笑(編)

横半 一

* 水野正信旧蔵書のうち。「水野正信図書之記」印あり。

三一 八 御組同心姓名御宛行高勤書等之書付(御組同心姓名書付)

慶応元年筆

御組同心 四拾五人

縦 一

* 水野正信旧蔵書のうち。

三一 九 御領分惣高等一条

明治 写

縦 一

旧蓬左文庫所蔵史料目録(上)

番 号 表 題

刊 写 年

著 者 (作 成 者)

蔵 書 印

形 態 数 量

*後半に「文久三年袋町筋北鷹匠町木戸門等出来方図面」その他の町方に関する図面を収録する。

三一三 信州筑摩郡木曾村々産物(尾張信江御領分産物)

江戸 写

蓬左 A

縦 一

*水野正信旧蔵書のうち。「水野正信図書之記」印あり。内容は「尾州・濃州・江州村々産物書上帳」と「信州筑摩郡木曾村々産物」とに分けられる。後の改装により中表紙が錯綴している。

三一三 農政学解嘲(天保一一年自跋)

江戸末期写

佐藤信淵(著)

蓬左 A

縦 一

*水野正信旧蔵書のうち。後半に弘化二年「佐藤椿園家伝書目録」を付す。

三一三 (松平越前守見込書)(海防献策集・嘉永六年)

江戸末期写

縦 一

*水野正信旧蔵書のうち。

三一三 (関東御入国御知行割)

江戸 写

縦 一

*水野正信旧蔵書のうち。

三一四 凶荒図録

明治一八年刊

小田切春江(編)
愛知同好社(版)

縦 一

*水野家旧蔵書のうち。

三一三 東蝦夷夜話

文久元年刊

大内余庵(著)
文苑閣(版)

縦 三

*水野正信旧蔵書のうち。

三一四 (五箇庄略記)

写年未詳

縦 一

三一七 (蝦夷地全図)

嘉永七年刊

喜多野高知(編)

鋪 一

*水野正信旧蔵書のうち。

三一六 改正蝦夷全図

嘉永七年刊

山城屋佐兵衛ほか(版)

鋪 一

*水野正信旧蔵書のうち。「水野正信図書之記」印あり。

三一七 (蝦夷地絵図)

江戸 写

鋪 一

三一〇二 無人島大小八十余山之図(小笠原諸島絵図・天明五年) 江戸 写 林子平〔編〕 鋪 一

*天明五年秋に須原屋市兵衛より刊行された図を転写したもの。水野正信旧蔵書のうち。

三一〇七 朝鮮・琉球・蝦夷并ニカラフト・カムサスガ・ラッコ 江戸 写 林子平〔編〕 鋪 一

島等数国接壤ノ形勢ヲ見ル為ノ小図(天明五年)

*天明五年秋に須原屋市兵衛より刊行された図を転写したもの。水野正信旧蔵書のうち。

三一〇九 朝鮮八道之図(天明五年) 江戸 写 林子平〔編〕 鋪 一

*天明五年秋に須原屋市兵衛より刊行された図を転写したもの。水野正信旧蔵書のうち。

三一三〇 蝦夷国全図(天明五年) 江戸 写 林子平〔編〕 鋪 一

*天明五年秋に須原屋市兵衛より刊行された図を転写したもの。水野正信旧蔵書のうち。

三一三七 (築地御屋敷之図) 江戸 写 鋪 一

*水野正信旧蔵書のうち。

三一三四 尾州名護屋慶長以前之古図(慶長前名古屋図) 文化一四年写 鋪 一

三一三五 芝愛右下絵図(芝愛右下辺之絵図) 明和三年刊 瀨名貞雄〔編〕 吉文字屋治 鋪 一

*水野正信旧蔵書のうち。

三一三七 番町絵図(東都番町図) 宝暦五年刊 瀨名貞雄〔編〕 吉文字屋治 鋪 一

*水野正信旧蔵書のうち。

三一三六 下谷浅草絵図(下谷浅草辺絵図) 明和四年刊 瀨名貞雄〔編〕 吉文字屋治 鋪 一

*水野正信旧蔵書のうち。

三一四〇 文久三年町触外雜記(文久三年町触模記) 江戸末期写 瀨名貞雄〔編〕 吉文字屋治 鋪 一

*水野正信旧蔵書のうち。

三一四三 (年寄加判宅用諸調進振格) 安政二年筆 縦 一

旧蓬左文庫所蔵史料目録(上)

番 号 表 題

刊 写 年

著 者 (作 成 者)

蔵 書 印

形 態 数 量

* 水野正信旧蔵書のうち。

三十一 銀草

写年未詳

縦 一

* 水野正信旧蔵書のうち。

三十二 地廻り日雇代之覺 大道寺屋敷(文化・天保)

江戸後期写

縦 一

* 水野正信旧蔵書のうち。

三十三 御扶助之町人(由緒書上)

江戸 写

縦 一

三十四 (衆香類集)

写年未詳

横・小 一

三十五 薰物之方

写年未詳

折本 一

三十六 (大日本海)(略絵図)

写年未詳

鋪 一

三十七 (文久改正 新選京絵図)

文久二年刊

竹原好兵衛(版)

鋪 一

三十八 (蝦夷地細図)

江戸 写

鋪 一

三十九 (分間江戸大絵図)

安政六年刊

須原屋茂兵衛(版)

鋪 一

四十 (改正京町絵図細見大成 洛中洛外町々小名)

天保二年刊

竹原好兵衛(版)

鋪 一

四十一 (東京郭内外分図)

明治 刊

鋪 三四

* 木箱入り。近吾堂版・尾張屋版の切絵図に新たな題簽を付したもの。

第一 鋪 駿河台・小川町図(東京御郭内小川町・飯田町)(嘉永二年近吾堂版)

第二 鋪 芝愛宕下・西ノ久保辺絵図(東京芝ノ口愛宕下)(嘉永二年近吾堂版)

第三 鋪 四ツ谷・千駄谷・内藤新宿辺絵図(東京御郭外四ツ谷鮫川橋)(嘉永二年近吾堂版)

第四 鋪 谷中・本郷・駒込・小石川辺絵図(東京市街本郷・丸山・湯島)(嘉永三年近吾堂版)

第五 鋪 浅草鳥越・堀田原辺絵図(東京市街浅草御蔵前通)(嘉永三年近吾堂版)

- 第六鋪 下谷・三ノ輪・淺草・三谷辺之絵図〔東京市街今戸・淺草・山谷〕（嘉永三年近吾堂版）
- 第七鋪 青山長者丸辺之図〔東京郭外青山長者丸〕（嘉永四年近吾堂版）
- 第八鋪 牛込・市ヶ谷御門外・原町辺絵図〔東京御郭外市ヶ谷・牛込御門外〕（嘉永四年近吾堂版）
- 第九鋪 大久保・戸山・高田辺之図〔東京御郭外大久保・戸山・高田〕（嘉永四年近吾堂版）
- 第一〇鋪 音羽・目白・雑司ヶ谷辺絵図〔東京御郭外音羽・雑司ヶ谷〕（嘉永四年近吾堂版）
- 第一一鋪 渋谷・宮益・金王辺図〔東京御郭外渋谷・宮益〕（嘉永四年近吾堂版）
- 第一二鋪 内藤新宿新屋敷辺之図〔東京御郭外内藤新宿・成子〕（嘉永四年近吾堂版）
- 第一三鋪 上水北・小日向・小石川辺絵図〔東京小日向・江戸川北水道端〕（嘉永五年近吾堂版）
- 第一四鋪 巢鴨・染井・王子辺図〔東京御郭外王子・巢鴨〕（嘉永五年近吾堂版）
- 第一五鋪 小石川辺図〔東京御郭外小石川・大塚〕（嘉永五年近吾堂版）
- 第一六鋪 駒込・巢鴨辺之絵図〔東京御郭外染井・駒込殿中〕（嘉永五年近吾堂版）
- 第一七鋪 白山・駒込辺之絵図〔市街内外白山・駒込〕（嘉永五年近吾堂版）
- 第一八鋪 東都下谷絵図〔東京市街外神田・下谷・上野〕（文久二年尾張屋版）
- 第一九鋪 本所・深川絵図〔東京深川絵図〕（文久二年尾張屋版）
- 第二〇鋪 本所絵図〔東京本所絵図〕（文久三年尾張屋版）
- 第二一鋪 京橋南・築地・鉄炮洲絵図〔東京市街京橋南・築地〕（明治元年尾張屋版）
- 第二二鋪 麴町・永田町・外桜田絵図〔東京御郭内外桜田・永田町〕（明治二年尾張屋版）
- 第二三鋪 東都番町大絵図〔東京麴町北・番町〕（安政五年尾張屋版）
- 第二四鋪 日本橋南・京橋・八丁堀・靈岸島辺絵図〔東京市街日本橋南・靈岸島〕（嘉永七年近吾堂版）
- 第二五鋪 芝・高輪・三田・白金辺絵図〔芝・高輪辺絵図〕（安政三年近吾堂版）
- 第二六鋪 鎧之渡・柳原・両国・箱崎辺絵図〔東京市街両国・浜町・柳原〕（嘉永六年近吾堂版）
- 第二七鋪 赤坂・今井辺絵図〔東京御郭外赤坂御門外〕（嘉永七年近吾堂版）
- 第二八鋪 日本橋北・内神田辺絵図〔東京市街日本橋北・神田〕（嘉永七年近吾堂版）
- 第二九鋪 麻布・広尾辺絵図〔東京御郭外麻布龍土〕（嘉永七年近吾堂版）
- 第三〇鋪 小石川・牛込・小日向辺之絵図〔東京御郭外小日向・小石川〕（安政三年近吾堂版）

番号表題

刊写年

著者(作成者)

蔵書印

形態

数量

- 第三一鋪 小日向・牛込・関口辺絵図(東京小日向築土)(安政三年近吾堂版)
 第三二鋪 芝金杉・三田・白金辺之絵図(東京御郭外芝金杉・三田)(年末詳近吾堂版)
 第三三鋪 品川・白金・目黒辺之絵図(東京御郭外白銀・品川・目黒)(安政二年近吾堂版)
 第三四鋪 御曲輪内大名小路絵図(東京大名小路・桜田内)(明治二年尾張屋版)

四一二五 (江戸絵図)(寛政〜享和)

江戸後期写

鋪 三九

*木箱入り。

- | | | | |
|------|------------------------------|------|-----------------------------|
| 第一鋪 | イノ一 大手ヨリ西御丸下・大名小路迄 | 第二鋪 | イノ二 小川町ヨリ駿河台・清水御門・牛込御門内迄 |
| 第三鋪 | イノ三 番町・糒町・四ツ谷御門内迄 | 第四鋪 | イノ四 外桜田ヨリ永田町・麴町南之方迄 |
| 第五鋪 | イノ五 牛込神楽坂ヨリ市ヶ谷加賀屋鋪・木村・四ツ谷北之方 | 第六鋪 | イノ六 四ツ谷・鮫ヶ橋・青山辺迄 |
| 第七鋪 | イノ七 赤坂御門ヨリ溜池端・今井・龍土辺迄 | 第八鋪 | イノ八 常盤橋御門外ヨリ昌平橋・柳原・元浜町・両国橋迄 |
| 第九鋪 | イノ九 日本橋ヨリ京橋・靈岸島・永代橋迄 | 第一〇鋪 | イノ十 京橋ヨリ芝口・鉄炮洲・浜御殿辺 |
| 第一一鋪 | イノ十一 佃島ヨリ深川八幡・洲崎辺 | 第一二鋪 | ロノ一 川田窪・高田・大久保辺迄 |
| 第一三鋪 | ロノ二 高田馬場ヨリ雜司ヶ谷迄 | 第一四鋪 | ロノ三 大久保ヨリ四ツ谷・千駄ヶ谷迄 |
| 第一五鋪 | ロノ四 青山百人町より下渋谷辺千駄ヶ谷迄 | 第一六鋪 | ロノ五 内藤宿・千駄ヶ谷辺 |
| 第一七鋪 | ロノ六 赤羽橋ヨリ三田・麻布・白銀辺迄 | 第一八鋪 | ロノ七 白銀台ヨリ大崎・目黒辺迄 |
| 第一九鋪 | ロノ八 鷺森ヨリ白銀台・伊皿子辺迄 | 第二〇鋪 | ロノ九 西久保ヨリ愛宕下・増上寺・海手迄 |
| 第二一鋪 | ロノ十 麻布笄橋ヨリ広尾・下渋谷迄 | 第二二鋪 | ロノ十一 三田寺町ヨリ芝海手迄 |
| 第二三鋪 | ロノ十二 芝大木戸ヨリ高縄・品川東海寺辺迄 | 第二四鋪 | ハノ一 水道橋ヨリ御弓町・本郷・湯島・下谷辺迄 |
| 第二五鋪 | ハノ二 下谷辺ヨリ浅草迄 | 第二六鋪 | ハノ三 金龍山ヨリ日本堤・端場・千住大橋迄 |
| 第二七鋪 | ハノ四 下谷坂本ヨリ金杉・三ノ輪・千住大橋迄 | 第二八鋪 | ハノ五 牛込御門ヨリ江戸川・小日向辺迄 |
| 第二九鋪 | ハノ六 小石川ヨリ小日向台・大塚護国寺迄 | 第三〇鋪 | ハノ七 小石川ヨリ巢鴨・染井辺迄 |
| 第三一鋪 | ハノ八 駒込ヨリ千駄木・根津・谷中辺 | 第三二鋪 | ハノ九 谷中感応寺ヨリ道灌山迄 |
| 第三三鋪 | ニノ一 南本所大川ヨリ横川迄 | 第三四鋪 | ニノ二 南本所横川ヨリ御材木蔵迄 |
| 第三五鋪 | ニノ三 南本所羅漢寺ヨリ中川迄 | 第三六鋪 | ニノ四 北本所龜戸辺ヨリ中川迄 |

第三七鋪 ニノ五 北本所大川ヨリ横川迄南割下水
第三九鋪 ニノ七 北本所大川ヨリ横川迄石原・北割下水辺

第三八鋪 ニノ六 北本所横川ヨリ亀戸迄

三十二 坤輿図

天明二年写

蓬左 A

縦・鋪 七

*木箱入り。蓋の裏面には「天明二年壬寅冬十月以白川世子定信藏書号焉」と墨書されている。「坤輿全図」と題された縦帳一冊と「坤輿図」六鋪からなる。

三十一 一 進饌要覧大全(進饌要覧)(天保九年成稿)

江戸後期写

清原重巨・大野安興(著)

蓬左 A

縦 一八

*木箱入りの正編二三冊と別系統の附録・別録五冊からなる。

第一冊 巻之一(御給仕心得方之事)

第二冊 巻之二(配膳進退心得方之事ほか)

第三冊 巻之三(年頭御礼御流頂戴之御次第ほか)

第四冊 巻之四(御門主様御三献御式之御次第ほか)

第五冊 巻之五(近衛様御献并御料理御饗応御式之御次第ほか)

第六冊 巻之六(上使御饗応御式之御次第)

第七冊 巻之七(年頭御老中御招請御式之御次第)

第八冊 巻之八(御帰国之節御老中御招請御式之御次第)

第九冊 巻之九(神酒御頂戴之御次第)

第一〇冊 巻之十(御燗鍋取扱方之事)

第一一冊 巻之十一(巻之一・二書中見合之図ほか)

第一二冊 巻之十二(御式正御盃事之図)

第一三冊 巻之十三(神酒取扱方之図ほか)

第一四冊 附録元(二列御役名之事ほか)

第一五冊 附録亨(江戸年頭御礼御流頂戴之御次第ほか)

第一六冊 附録利(犬山城を初右辺御巡覧隼人正御目見御盃被下候御次第ほか)

第一七冊 附録貞(御本丸御座之間図ほか)

第一八冊 別録(天保十亥年源信様御逝去ニ付上使被進御饗応之御次第)

三十一 二 (江戸各地分図)(江戸切絵図)

嘉永ノ安政刊

尾張屋清七(版)

鋪

二八

第一鋪 東都青山絵図(青山・渋谷絵図)(嘉永六年)

第二鋪 今井谷六本木・赤坂絵図(赤坂絵図)(嘉永三年)

第三鋪 今戸・箕輪・浅草絵図(今戸・箕輪・浅草絵図)(嘉永六年)

第四鋪 東都麻布之絵図(麻布絵図)(嘉永四年)

第五鋪 市ヶ谷・牛込絵図(市ヶ谷・牛込絵図)(嘉永四年)

第六鋪 大名小路・神田橋内・内桜田絵図(御江戸大名小路絵図)(嘉永二年)

第七鋪 番町絵図(御江戸番町絵図)(嘉永年間)

第八鋪 東都浅草絵図(浅草御蔵前辺絵図)(嘉永六年)

第九鋪 牛込・市ヶ谷・大久保絵図(大久保絵図)(嘉永七年)

第一〇鋪 雑司ヶ谷・音羽絵図(音羽絵図)(嘉永六年)

四一 外蕃通書

- 第二一鋪 第四大区七ノ八小区
- 第二三鋪 第五大区一ノ二小区
- 第二五鋪 第五大区三ノ四小区・七小区
- 第二七鋪 第五大区十一ノ十二小区
- 第二九鋪 第六大区三ノ五小区

江戸 写

- 第三二鋪 第四大区九ノ十小区
- 第三四鋪 第五大区五小区・八小区
- 第三六鋪 第五大区六小区・九ノ十小区
- 第三八鋪 第六大区一ノ二小区
- 第三〇鋪 第六大区六ノ八小区

近藤守重(編)

蓬左 A・張府 B 縦 二八

第一冊―第五冊 朝鮮国書一ノ五

第八冊―第一〇冊 明国書一ノ三

第二五冊―第一七冊 暹羅国書一ノ三

第二〇冊 占城国書・太泥国書・田弾国書

第二四冊―第二五冊 阿媽港書一ノ二附五和国書

第二七冊 漢又利亜国書

四三 (東西蝦夷山川地理取調図)(万延元年序)

江戸末期刊

第一鋪 首(凡例・番合之図・案内土人名簿)

第二鋪 尾(地名・境界・持場・里数・人別・泊家・山川・本名・名所)

第三鋪 一(從松前城下西在 到スネゴ岬)

第五鋪 三(從西部アイヌマナイ村 到シユマコマキ領)

第七鋪 五(東部ホロヘツ領トシケシ 到同サル領サルプト)

第九鋪 七(從東部シヤマニ領ホロマベツ 到クスリ領ハシクロ)

第一一鋪 九(從西部イハナイ領ライデン 到タカシマ領テミヤ)

第一三鋪 十一(石狩山中)

第一五鋪 十三(從東部クスリ領アツケシ)

第一七鋪 十五(東部シコタン島)

第一九鋪 十七(テシホ山中 從エサシ領 到モンベツ領ホロナイ)

旧蓬左文庫所蔵史料目録(上)

松浦竹四郎(編)
版元未詳

張府 A

鋪 二八

第四鋪 二(從松前城下箱館 到東在臼尻村)

第六鋪 四(從臼尻村領砂原鷺ノ木 到モロラン領ワスベツ)

第八鋪 六(從サル領サルフツ 到シヤマニ領ホロマヘツ)

第一〇鋪 八(從東部クスリ領ワツテ 到アツケシ領タンネクツ)

第一二鋪 十(從西部タカシマ領ヲタルナイ 到ル、モツヘ領ウシヤ)

第一四鋪 十二(從東部トカチ山中)

第一六鋪 十四(從東部アツケシ領ヒハセイ 到ネモロ領チニシヘツ)

第一八鋪 十六(從西部ル、モヘツ領トマ、イ 到テシヲ領)

第二〇鋪 十八(從西部モンベツ領エノムコタン 到同領トウフツ)

番号表題

刊写年

著者(作成者)

蔵書印

形態

数量

- 第二冊 十九(従モンベツ領トウフツ 到同ヲシユンクシ)
第三冊 廿一(従西部テシホ領ホロヌフ 到ソウヤ領ランネヲマナイ)
第二四冊 廿二(テシホ山中 従ソウヤ領ランネヲマナイ 到エサシ領ホロナイボ)
第二五冊 廿三(従クナシリ島ヲニヲナイ 到アトイヤ)
第二七冊 廿五(従エドロフ島チエトイヲマナイ 到ヘトフチ川)

四一五 (外蕃書翰)

江戸 写

近藤守重(編)

張府B

折本

二

四一五 (湖月抄)

延宝元年刊

北村季吟(著)
村上勘左衛門ほか(版)

蓬左A

縦

六〇

*源氏物語の注釈五四冊に発端・系図・表白・雲隠説・年立(二冊)を付す。

- 第一冊 卷一(桐壺)
第三冊 卷三(空蟬)
第五冊 卷五(若紫)
第七冊 卷七(紅葉賀)
第九冊 卷九(葵)
第十一冊 卷十一(花散里)
第十三冊 卷十三(明石)
第十五冊 卷十五(蓬生)
第十七冊 卷十七(絵合)
第十九冊 卷十九(薄雲)
第二十一冊 卷二十一(乙女)
第二十三冊 卷二十三(初音)
第二五冊 卷二十五(蛭)
第二七冊 卷二十七(篝火)
第二九冊 卷二十九(行幸)
- 第二冊 卷二(帚木)
第四冊 卷四(夕顔)
第六冊 卷六(未摘花)
第八冊 卷八(花宴)
第一〇冊 卷十(賢木)
第十二冊 卷十二(須磨)
第十四冊 卷十四(濤標)
第十六冊 卷十六(関屋)
第十八冊 卷十八(松風)
第二〇冊 卷二十(朝顔)
第二二冊 卷二十二(玉鬘)
第二四冊 卷二十四(胡蝶)
第二六冊 卷二十六(常夏)
第二八冊 卷二十八(野分)
第三〇冊 卷三十(藤袴)

第三一冊 卷三十一(真木柱)
 第三三冊 卷三十三(藤裏柴)
 第三五冊 卷三十四下(若菜下)
 第三七冊 卷三十六(横笛)
 第三九冊 卷三十八(夕霧)
 第四一冊 卷四十(幻)
 第四三冊 卷四十二(紅梅)
 第四五冊 卷四十四(橋姫)
 第四七冊 卷四十六(総角)
 第四九冊 卷四十八(寄木)
 第五一冊 卷五十(浮舟)
 第五三冊 卷五十二(手習)
 第五五冊 湖月抄発端
 第五七冊 表白
 第五九冊 源氏物語年立上

第三二冊 卷三十二(梅枝)
 第三四冊 卷三十四上(若菜上)
 第三六冊 卷三十五(柏木)
 第三八冊 卷三十七(鈴虫)
 第四〇冊 卷三十九(御法)
 第四二冊 卷四十一(匂宮)
 第四四冊 卷四十三(竹河)
 第四六冊 卷四十五(椎本)
 第四八冊 卷四十七(早蕨)
 第五〇冊 卷四十九(東屋)
 第五二冊 卷五十一(蜻蛉)
 第五四冊 卷五十三(夢浮橋)
 第五六冊 源氏物語系図
 第五八冊 雲隠説
 第六〇冊 源氏物語年立下